

HEARTH

2008年度ミサワホームCSR報告書





HEART

深く信頼されるミサワホームをめざして

お客さまをはじめ、多くの人びととの共同作業である住まいづくり。
だからこそミサワホームは、「HEART」すなわち信頼関係を大切にしたい企業活動に努めています。
「HEART」の 카테고리では、その取り組みを詳しくご紹介しています。

HEART
HEARTH
EARTH

CSR活動テーマ

地球にやさしいミサワホームをめざして

住まいという居住環境をはじめ、ミサワホームはあらゆる環境をデザインする企業として、
「EARTH」すなわち地球環境に配慮した企業活動に努めています。
「EARTH」の 카테고리では、その取り組みを詳しくご紹介しています。



EARTH

【HEARTH】住まいは“巢まい”。鳥の巣がヒナを育てるためにあるように、住まいづくりは元来、子どものためにあるとミサワホームは考えています。社名の「HOME」には、単なる器としての「HOUSE」ではなく、家族のふれあいが感じられるような、暮らし方までトータルに考えられた住まい「HOME」を提供するという創業以来の理念が込められているのです。欧米には「HEARTH&HOME」という言い方があります。「HOME」に「HEARTH(暖炉)」があつてはじめて暖かき我が家になる、という意味ですが、ミサワホームではこの「HEARTH」を、「HEART(心)」と「EARTH(地球)」が一体化した言葉に見立てました。「HEART」は「深く信頼されるミサワホームをめざして」、「EARTH」は「地球にやさしいミサワホームをめざして」という意図を込め、CSR推進活動のテーマとしています。

■会社概要

社 名 ミサワホーム株式会社※
(MISAWA HOMES CO.,LTD.)

設立年月日 平成15年8月1日

主要事業所

本 社 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 新宿NSビル

本 館 東京都杉並区高井戸東二丁目4番5号

LACビル 東京都杉並区浜田山三丁目19番11号 LACビル

資 本 金 23,412,999,000円(平成20年3月31日現在)

主 要 事 業 ●建物及び構築物の部材の製造及び販売
●建築、土木、外構、造園その他工事の設計、請負、施工及び監理
●不動産の売買、交換、賃貸、仲介、管理及び鑑定
●建設資材、建設設備機器、建設機械装置、家具及び室内装飾品の設計、製造、施工、販売、賃貸及び輸出入
●高齢者向集合住宅施設の経営並びに当該施設の利用権の販売及び仲介
●介護保険による居宅介護業務他、介護業務関係
●上記事業に関する調査、研究、技術開発、教育及びコンサルタント業務 他

従 業 員 数 770名(平成20年3月31日現在)

※ミサワホームホールディングス株式会社は子会社であるミサワホーム株式会社を平成19年10月1日をもって吸収合併し、社名をミサワホーム株式会社に変更しています。

■編集方針

ミサワホームは1999年に業界初の「環境活動報告書」を作成し、以降8年間にわたって環境マネジメントシステムの運用実績を中心に発行を続けてきましたが、昨年度からは社会的側面の活動報告を加えた「CSR報告書」としました。ミサワホームのCSR活動テーマである「HEARTH」に基づき、前半を「HEART(深く信頼されるミサワホームをめざして)」、後半を「EARTH(地球にやさしいミサワホームをめざして)」という2部構成としています。作成にあたり、環境活動部分は環境省の「環境報告書ガイドライン(2003年版)」を、社会的側面についてはGRI(Global Reporting Initiative)の「GRIガイドライン2002年版」を参考にしています。

■対象範囲

ミサワホーム株式会社及びミサワホーム工場(木質工場:11工場、木質部品工場:3工場、セラミック工場:2工場)

対象組織 本報告書の対象範囲はミサワホーム株式会社を中心として記載していますが、一部、ミサワホーム工場(16工場)、販売・建設を担うミサワホームディーラーを含むミサワホームグループの活動(ミサワホームグループの一覧についてはP57を参照)についても記載しています。

また、個人の所属・役職名、組織名については発行日現在のものとしています。

対象期間 2007年度(2007年4月1日～2008年3月31日)を基本としています。必要に応じて2007年度以前及び2007年度以降の活動内容も記載しています。

発 行 日 2008年9月(次回発行予定 2009年8月)

■目次

会社概要・編集方針	2
トップコミットメント	3
企業理念	5
経営ビジョン	6
新中期経営計画	9
コーポレートガバナンス	10
2007年度CSR活動トピック	12

HEARTHトップページ	17
お客さまと共に	18
従業員と共に	26
取引先と共に	28
株主と共に	29
社会と共に	31

EARTHトップページ	35
ミサワホームグループの環境への取り組み	36
ミサワホームの環境会計	37
ミサワホームの環境マネジメントシステム	38
ミサワホームの環境への関わり	39
2007年度環境活動の実績と自己評価	41
地球環境と共に	44

ミサワホームグループの沿革	55
ミサワホームグループネットワーク	57



社会のニーズにこたえる
優良な住宅を開発し、
普及させることがわが社の最大の
CSRだと思っています。

ミサワホーム株式会社
代表取締役社長

竹中 宣雄

トップコミットメント

「住まいのNo.1ブランド」を目指す中長期経営ビジョン

ミサワホームグループでは2006年8月に、新たなステージに向かい確たる事業基盤を構築することを目的に、10年後を視野に入れた「中長期経営ビジョン」を策定しました。このビジョンではコーポレートスローガンである「住まいを通じて生涯のおつきあい」という精神のもと、良質の「住まい」を提供し、豊かな社会づくりに貢献するための経営理念とステークホルダーごとの行動指針に基づき「お客さま満足度の徹底追求」と「時代をリードする発想力」で「住まいのNo.1ブランド」を目指しています。「QUALITY」「SATISFACTION」「PERFORMANCE」の3つの視点から6つのターゲットを定めていますが、その中でも長期にわたり住み継がれる住まいの実現については、最も重要な課題であると認識しています。

社会的ニーズにマッチした「事業ポートフォリオの多様化」

「中長期経営ビジョン」を実現するために2008年度をスタートとする3ヵ年の「新中期経営計画」を策定し、その骨子のひとつに「事業ポートフォリオの多様化」を掲げています。従来、当社は戸建注文住宅を主力事業としてきましたが、少子高齢化や将来予測されている世帯数の減少に対応するためには、賃貸住宅も含めたシルバー事業を強化するなど事業ポートフォリオを多様化していく必要があります。具体的には当社が15年前から取り組んでいる「マザアス南柏」をはじめとする高齢者介護事業で培っ

てきたノウハウを最大限活かし、介護付老人ホームを核としたグループホームやデイケアサービスセンター、さらには高齢者専用賃



貸住宅建設など、ご高齢者が安心して同一エリア内で生活できる地域開発を東阪名中心に展開いたします。また、現在法制化が進められている「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」への対応として、長く大切にお住まいいただくためのリフォーム事業強化も、ポートフォリオの多様化のひとつです。1,150万戸もあるとされている耐震性の不足した住宅への耐震補強工事や、地球的規模

で求められているCO₂削減のための断熱改修工事など、社会的ニーズにマッチした取り組みを進めていきます。

コンプライアンスの徹底と

「エンゲージメント」(わが社意識)の浸透を図る

当社では一昨年、子会社であるミサワホーム九州において不適切な会計処理が発覚したことを機に、社内に「経営改革委員会」を設置し、社内ルールの見直し、研修などを通じた役職員に対するコンプライアンス意識の再徹底など、再発防止に向けて様々な施策を実施しております。コンプライアンスを守り続けるためには、自由市場で競争が激しくなる中においても、常に倫理観を持ち、社員がこの会社と一緒に成長していきたいと思えるような会社でなければなりません。また、最近では社員個々の意欲と組織との一体感を意味する内容として「エンゲージメント」(わが社意識)という言葉が使われはじめています。当社においても、この「エンゲージメント」が必要ではないかと思っています。全社員にこのエンゲージメントを持ってもらえるような会社にすることが、私の役割のひとつだと考えています。

環境対策として「次世代ゼロ・エネルギー住宅」の開発に着手

今年7月に、北海道において洞爺湖サミット(主要国首脳会議)が開催されましたが、環境対策は地球規模で取り組むべき重要な課題のひとつです。世界有数の環境技術を持つ日本がリーダーシップをとっていくべきですが、一方で日本の家庭部門の二酸化炭素(CO₂)の排出量は2005年度に1990年度比37%も増えています。住宅業界としても住宅の省エネや創エネに取り組み、長持ちする住宅を開発する必要があります。それによって資源の無駄使いとCO₂の排出を根本的に減らすことにつながります。当社では長期優良住宅について、これを15年前から100年住宅として提案してきました。また2006年には2010年までに達成すべき目標を定めた環境行動計画「SUSTAINABLE 2010」を発表し、住宅のライフサイクルにおけるCO₂の排出量を2010年までに1990年比で20%削減する目標を掲げ、様々な環境活動を推進しています。その一環として今年2月、北海道・旭川に徹底した断熱・気密対策を核とし

た「省エネルギー技術」と太陽や光や熱といった自然の恵みを活かす「創エネルギー技術」を高い次元で融合させ、年



間の光熱費をゼロにするだけでなく、ライフサイクルの中で建設時に必要なエネルギーも含めた収支をゼロにできる「次世代

ゼロ・エネルギー住宅」の試行棟を建設しました。

わが社におけるCSRとは

ミサワホームでは昨年、当社の活動がどのように社会と関わっているかを、様々なステークホルダーの方々にご理解いただくためにCSR報告書を発行いたしました。当社のCSR活動は緒についたばかりで、CSR専門部署もまだ設けておりません。しかし、「住まいを通じて生涯のおつきあい」というコーポレートスローガンに基づき、社会のニーズにこたえる優良な住宅を開発し、それを普及させるという役割を全部門が果たすことが、わが社にとっての最大のCSR活動であると思っています。そのためにミサワホームが永年培ってきた、すぐれた「技術力」と「デザイン力」を活かし、良質な社会ストックとなる住宅の開発に、グループ一丸となって取り組んでおります。その成果のひとつとして2007年度は、キッズデザイン協議会が子どもを産み育てやすい生活環境の実現に向けて、子どもの安全・安心の向上、健やかな成長発達に役立つ製品、活動などを顕彰する第1回キッズデザイン賞において、当社の子育て住宅「GENIUS Link-



Age」等が選定されました。ミサワホームグループのCSR活動はまだ不十分な点が多々ありますが、この報告書を最後までご一読いただき、忌たんのないご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

企業理念

ミサワホームの社名にある「HOME」の文字。そこには、単なる器としての家（HOUSE）ではなく、家族のふれあいが感じられるような、暮らし方までトータルに考えられた住まい（HOME）の提供、という創業以来の住まいづくりの理念が込められています。

【コーポレートスローガン】

私たちミサワホームグループは「住まいを通じて生涯のおつきあい」という精神のもと、良質の「住まい」を提供し、豊かな社会づくりに貢献します。

【経営理念】

安全・快適で環境を重視した家づくり、街づくりを行います。

法令を遵守し、倫理を重んじて誠実に行動します。

地球全体を視野に入れ、環境保全活動などを行い、社会に貢献します。

企業価値の向上に努め、長期安定的な成長により、ステークホルダーとの共存共栄を実現します。

グループ社員が相互に信頼し、協力し合って能力を発揮する職場をつくります。

適正な財務報告・情報開示と適切なリスク管理を行います。

【行動指針】

1 | お客さま（消費者）に対して

- 私たちは、卓越したデザイン・技術により、良質で心のこもった商品・サービスを開発・提供します。
- 私たちは、誠実で適切な営業活動を行います。
- 私たちは、わかりやすく正確で適切な表示、情報提供を行い、十分な説明責任を果たします。
- 私たちは、アフターサービス体制を整備し、迅速で的確に対応します。
- 私たちは、お客さまの個人情報を適切に利用し、厳重に管理します。

5 | 社会・環境に対して

- 私たちは、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努力します。
- 私たちは、法令と社会的常識に基づいて行動します。
- 私たちは、官公庁、行政機関などと健全な関係を保ちます。
- 私たちは、反社会的勢力・団体からの不当な圧力に屈しません。
- 私たちは、地域社会の安全な生活に配慮し、地域社会と友好な関係を保ちます。
- 私たちは、事業活動を行うあらゆる地域において、社会貢献活動を積極的に推進します。

2 | 従業員に対して

- 私たちは、個人を尊重し、その成長を支援します。
- 私たちは、倫理的な行動を促す企業風土を育てます。
- 私たちは、国籍、人種、性別などによる差別を行いません。
- 私たちは、安全と健康に配慮した労働環境を保ち、さらに向上させるよう努めます。
- 私たちは、人権を尊重し、いかなる形であれ強制労働・児童労働は行いません。
- 私たちは、情報の重要性を認識し、情報セキュリティの確保に努めます。

4 | 株主（投資家）に対して

- 私たちは、長期的安定的な成長を通じ企業価値の向上に努めます。
- 私たちは、財務報告を含む経営情報を適時かつ適正に開示します。

3 | 取引先に対して

- 私たちは、取引先の決定にあたっては公正な基準と適正な手続により選定します。
- 私たちは、取引先と契約に基づく対等な関係を保ち、公正かつ自由な取引を行います。
- 私たちは、取引先と社会的常識の範囲内での節度ある関係を保ちます。



経営ビジョン

ミサワホームは「住まいは人格形成の場である」という信念をもって住まいづくりに取り組んでいます。そして、より多くのお客さまに共感していただけるよう、住まいを通じて、家族や地域、社会への貢献を目指します。

【中長期経営ビジョン】

私たちミサワホームグループは
コーポレートスローガン・経営理念・行動指針に基づき

「お客さま満足の徹底追求」と

「時代をリードする発想力」で

「住まいのNO.1ブランド」を目指します。

ミサワホームの目指す「住まいのNo.1ブランド」とは、単に売上や利益といった計数面でトップになるだけではありません。住まいを思うときに最初に思い浮かべてもらえる企業、というのがNo.1ブランドたる意味合いであり、ミサワホームの思いです。「住まいのNo.1ブランド」を目指し、「QUALITY」「SATISFACTION」「PERFORMANCE」という3つの視点から、右に掲げる6つのターゲットを定めています。

住まいのNO.1ブランドを位置付ける6つのターゲット



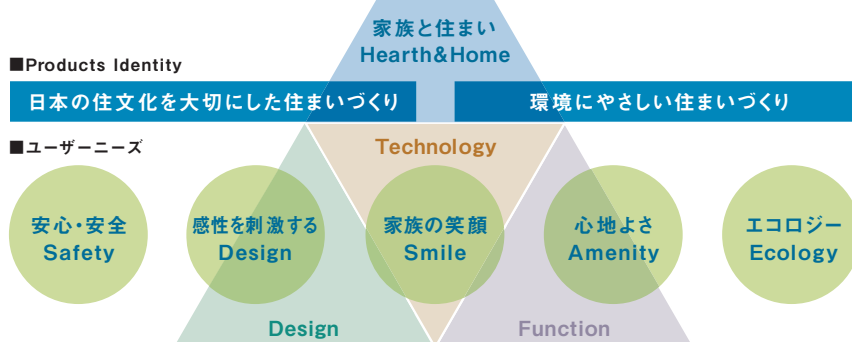
QUALITY

100年住み継がれる住まい

■技術力&デザイン力で、「100年住宅」を実現します。

刻々と変化する社会環境の中で、住まいに求められる価値観は多様化しています。一方で、「子育て」や「少子高齢化」など、普遍的なテーマへの取り組みも不可欠です。ミサワホーム

では「住まいは人格形成の場」というソフト面での信念と、永年培ってきた「技術力」「デザイン力」などのハード面でのこだわりを追求した、良質な社会ストックとなる「100年住み継がれる住まい」を提供します。



個の充実とこだわりへ

Simple PLUS

自由空間型住宅／経年美化住宅
地域性配慮型住宅

環境社会へ

SUSTAINABLE 2010

ECO・微気候デザイン住宅
新・100年住宅／家並み・街並みデザイン

少子高齢化社会へ

Amenity by Technology

二段階配慮住宅
子育て・家事支援住宅／健康・快適住宅

先進技術へ

Innovation

高効率エネルギー住宅
高性能・高耐久住宅／防犯・防災住宅

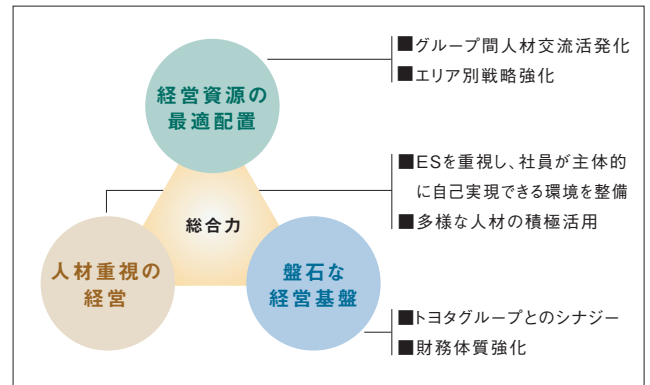
経営ビジョン

QUALITY

100年サポートできる経営基盤

■グループ経営の質を高め、総合力を結集します。

お客さまにいつまでも安心して住まいいただくためには、安定した企業経営が必要です。ミサワホームでは「経営資源の最適配置」「人材重視の経営」「磐石な経営基盤」により、グループ経営の質をさらに高めていくことを、「100年サポートできる経営基盤」という言葉で表現しました。“住まいを通じて生涯のおつきあい”を実践するために、お客さまサポートの仕組みを整え、継続的な業務の改善活動に取り組むことで無駄を減らし、高効率な経営体制を整えていきます。

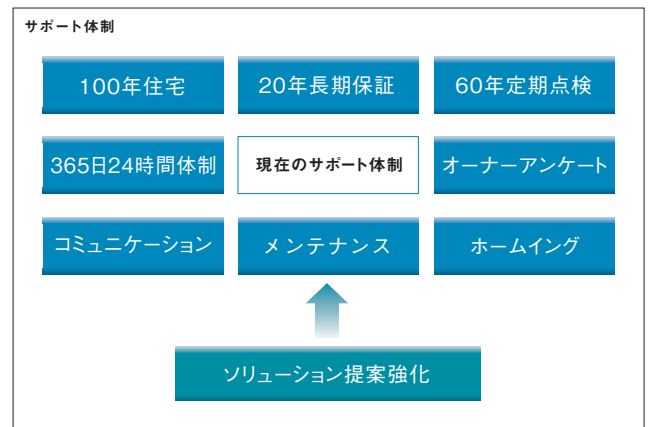


SATISFACTION

オーナー満足度No.1

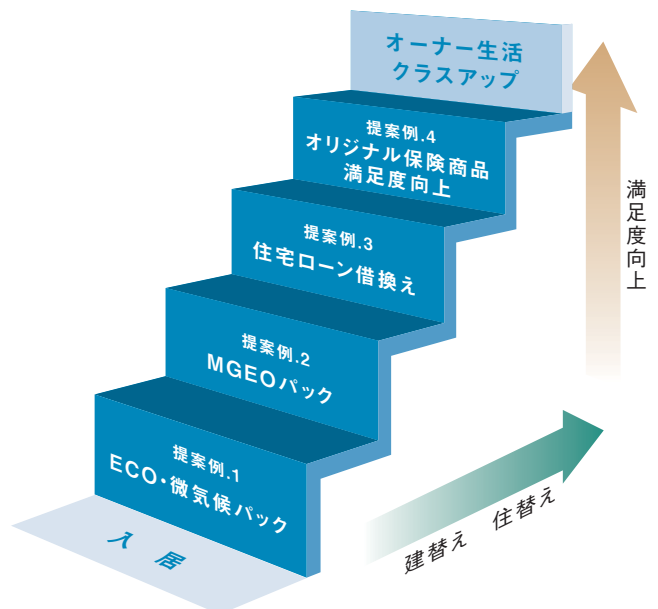
■オーナーさまと緊密なリレーションシップを築きます。

お客さまの新しい生活は、住まいが完成してから始まります。住まいを通じて豊かな暮らしをおくっていただくためには、ご入居後のサポートが重要です。「長期保証・点検制度」をはじめとする現在のサポート体制に加え、さらなるソリューション提案の強化により、新築時のご満足はもちろんのこと、住まい続けるほどに満足度が上がっていくようなオーナーサポート体制を構築します。定期的に住まいの情報を発信し、同時にお客さまの声を素早く反映できる仕組みを整えて緊密なリレーションシップを確立。オーナー満足度No.1を目指します。



■クラスアップ提案で、さらなる満足度向上を目指します。

ミサワホームの事業ブランドは、新築部門のミサワホームと、リフォームを主な事業とするミサワホームイングがあります。新築部門で培った独自の新しい技術・ソリューションをパッケージ化し、ミサワホームイングを通じてオーナーさまへご提案していくことで、住まいのクラスアップをお手伝い。さらなる満足度向上を目指します。リフォーム、住替え、建替え、金融商品紹介、資産活用などさまざまなご提案を通じ、生涯のおつきあいを実践します。



SATISFACTION

すべてのライフステージに対応

■お客さまの全てのライフステージをカバーします。

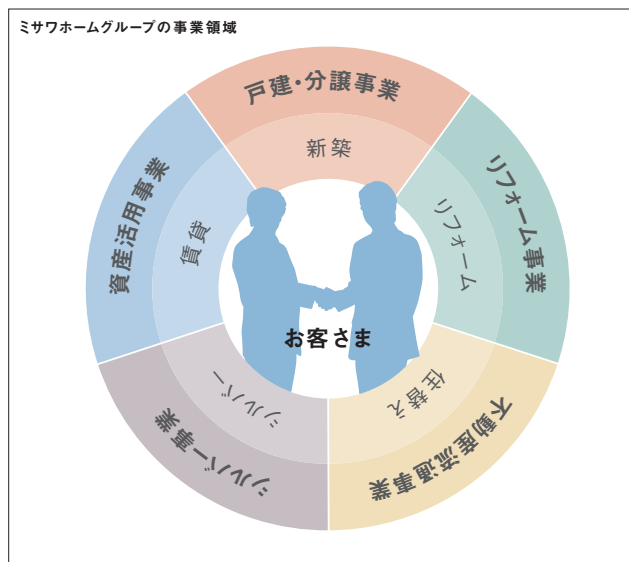
結婚、出産、子育て、親との同居など、人生には節目となるさまざまな時期があります。それに伴い住まいとの関わりも、新築からリフォーム、建替え・住替えはもちろん、シニア向け住宅や賃貸住宅など、常に変化していきます。ミサワホームではお客さまのライフステージを出発点とした事業展開を行い、全ライフステージをカバーするサービスの仕組みを整えていきます。



賃貸住宅による資産活用事業



豊富な実績があるシルバー事業



PERFORMANCE

戸建住宅シェアNo.1・リフォーム売上No.1

■10年後の売上棟数20,000棟を目指します。

商品とグループ経営のクオリティやお客さま満足度を上げていく活動の成果として、戸建住宅シェアNo.1とリフォーム売上No.1を目標とします。新築住宅の着工戸数は、少子高齢化などの影響により減少が予想されていますが、ミサワホームのシェアは全体の着工戸数の1%、持家に限ってもわずか3%です。拡大に向けた投資や教育などの営業インフラを整備し、10年後に完

工売上棟数20,000棟を目指します。また、これまでの新築に重点を置いてきた事業戦略から、フロー事業とストック事業のバランスの取れた拡大を目指します。ストック事業、特にリフォーム分野は今後大きな成長が見込める分野であり、既にお住まいいただいている50万棟のオーナー住宅という資産もあります。10年後のリフォーム売上2,000億円という目標を掲げ、新築とリフォーム拡大を両輪に、グループ売上高1兆円を達成したいと考えています。

項 目	現状(2008年3月期)	5年後	10年後
売上棟数 (内、賃貸住宅)	11,143棟(739棟)	14,000棟(1,000棟)	20,000棟(2,000棟)
リフォーム売上 ※グループ売上	497億円	700億円	2,000億円
連結売上 (グループ売上)	4,092億円	5,000億円(5,600億円)	9,000億円(1兆円)

アライアンスやM&A、グローバル化を視野に入れ、将来を見据えた新規事業を展望しています。

- オリジナル部品の外部販売
- 介護施設を核とした高齢者在宅ネットワークサービスの拡大
- 不動産流通事業、賃貸管理事業の強化
- 他工法によるセカンドブランドの展開など



木造軸組用制震装置「MGE0-N」



介護専用型高齢者住宅「マザアス南柏」

新中期経営計画

ミサワホームは「中長期経営ビジョン」を達成するために2006年に「中期経営計画」を策定しましたが、2007年度は住宅着工戸数が前年対比で大幅なマイナスを記録し、原油高を背景として原材料価格が高騰するなど、昨今の住宅市場の急激な変化は当初の予想を大きく上回り、計数計画と実績に乖離が生じたことから、市場変化に対応した新たな戦略の追加、現行戦略の一部修正と計数計画見直しを織り込み、2008年度を再スタートとする下記の「新中期経営計画」を策定しました。

事業ポートフォリオの多様化

近年、顧客の価値観や経済情勢など、市場環境が大きく変化している中で中長期的な事業展開を勘案した場合、特定事業セグメント(当社グループの場合は注文住宅事業)への過度な利益依存はリスク分散の観点からも見直すべき時期にあると考えております。加えて、当社グループの主力顧客である30歳代人口は今後5年程度をピークに減少に転じることから、新たな収益事業の確立は急務であり、新中期経営計画では下記事業について戦略的に強化していく方針を織り込んでおります。

①賃貸住宅、戸建分譲事業 首都圏を中心とした都市部で専任部隊を組成し、分譲は仕入れや販売、賃貸住宅は事業提案などのノウハウの蓄積と水

平展開により販売を拡大します。

②リフォーム事業 新築営業を中心にしたグループ内配置転換により営業社員を大幅増員し、オーナーさまからの受注体制を強化し、売上を拡大します。

③シルバー事業 高齢者介護事業については、介護付き老人ホームから、グループホーム、デイサービスセンターといった要介護度に対応した各施設をエリアの中で最適配置し、介護度の変化に合わせたサポート体制をエリア内で構築するモデルを各地で展開すると共に、高齢者の住まいに関するノウハウを各事業に展開し、高齢者用施設の開設・運営に係るコンサルティング業務や高齢者専用賃貸住宅などの受注強化を図ります。

④在来木造事業 多様な顧客ニーズ(価格、構造・工法、敷地形状など)への対応力強化のため、在来木造工法による新ブランドを立上げ、順次展開してまいります。

事業構造の再構築

旧中期経営計画の拡大方針に沿った新卒の大量採用や住宅展示場の新規出展は、結果として市場収縮により販売棟数がほぼ横ばいで推移する中で経費の増加を招き、収益確保の障壁となってしまいました。新中期経営計画では、新たな収益事業への人員配置を行いつつ、全体としては新卒採用の抑制、自然減などによりグループ総人員は2.5%程度削減し、営業生産性向上や総原価低減により損益分岐点の引き下げを図ります。

①営業生産性向上 不振エリアから有望エリアへの配置転換や、注文住宅事業から新たな収益事業への配置転換を推進すると共に、教育・研修強

化による若年社員の営業力向上で営業生産性を向上します。

②間接費削減 業務効率化の推進やアウトソースなどにより本社人員を削減すると共に、ディーラー間接部門人員の削減、不採算展示場の出展政策見直しなどにより間接費を削減します。

③直接費削減 原価企画活動を中心とした部材コスト削減、採用抑制・自然減による工場人員削減により直接費を削減します。

④グループ組織の再編 ディーラー毎の事業エリアを拡大し、より広域且つスピーディーな事業、エリア間の人員シフトやノウハウ水平展開、本社機能集約による合理化等により販売体制を再構築するため、東北ミサワホーム(株)と(株)ミサワホーム福島、ミサワホーム九州(株)と(株)ミサワホーム宮崎を2008年10月1日を目途にそれぞれ統合いたします。

中期計数計画

(単位:棟、億円)

	2008年度	2009年度	2010年度
販売棟数	11,200(+0.5%)	11,270(+0.6%)	11,350(+0.7%)
注文住宅	7,830(+0.1%)	7,830(±0.0%)	7,830(±0.0%)
賃貸・分譲	2,070(+8.1%)	2,190(+5.8%)	2,320(+5.9%)
部材外販	1,300(▲7.3%)	1,250(▲3.8%)	1,200(▲4.0%)
売上高	4,150(+1.4%)	4,280(+3.1%)	4,400(+2.8%)
注文住宅	2,161(+0.4%)	2,171(+0.5%)	2,171(±0.0%)
その他	1,989(+2.6%)	2,109(+6.0%)	2,229(+5.7%)
営業利益(利益率)	94(2.3%)	120(2.8%)	145(3.3%)
経常利益(利益率)	75(1.8%)	105(2.4%)	130(3.0%)

※販売棟数、売上高の()は前年比

コーポレートガバナンス

ミサワホームは「住まいを通じて生涯のおつきあい」のコーポレートスローガンのもと、お客さま、株主はもとより従業員等事業活動に係わるすべての関係者の利益を重視し、コーポレート・ガバナンスの確立は極めて重要な経営課題と位置付け、企業経営の透明性と信頼性の確保に努め、企業価値の最大化と収益拡大に向けて、迅速かつ適正な経営に取り組んでおります。

■ガバナンス体制

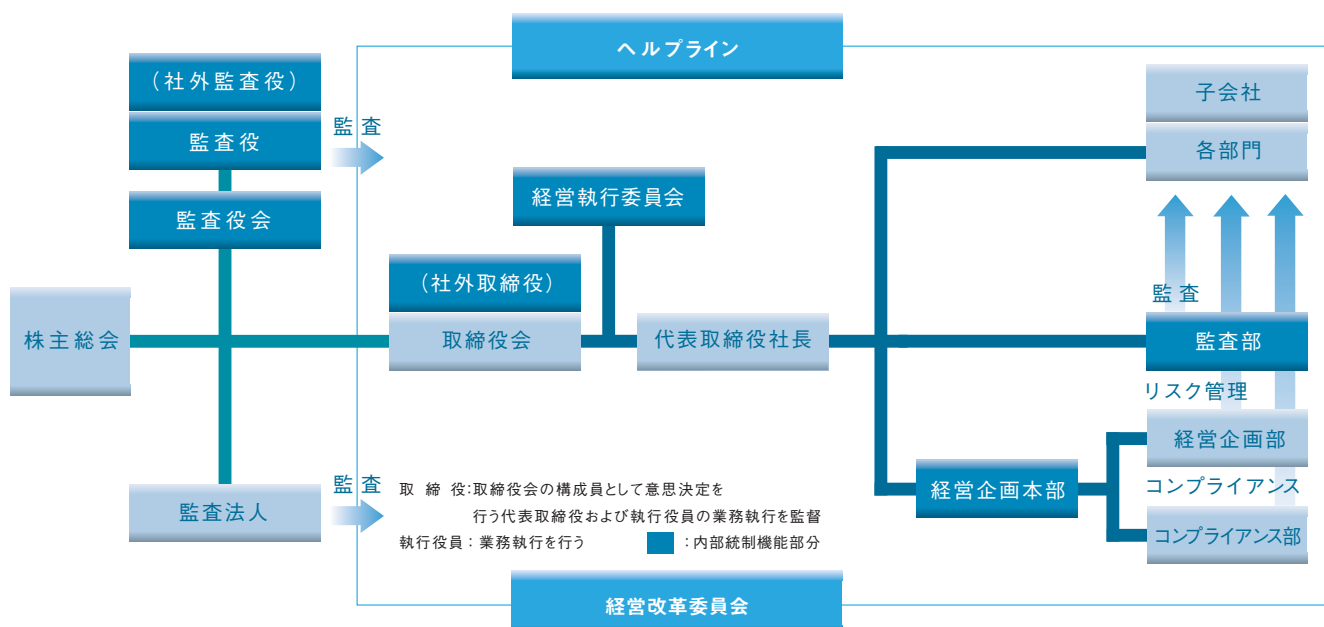
取締役会 当社は、取締役会規程、経営執行委員会規程及び職務権限規程により、経営に関する重要な事項については、経営執行委員会または取締役会の承認を経て業務執行しています。取締役会は2008年6月末現在、取締役10名で構成し、内2名は社外取締役として、取締役会の意思決定の過程の公正性とその決定内容の妥当性を確保しています。なお、取締役会の経営監督機能を補完するため、執行役員及び監査役で構成する経営執行委員会は経営企画部が事務局となり月1回以上開催し、迅速かつ適正な業務の意思決定を図っています。

監査役会 当社は監査役制度を採用し、6名の監査役(内4名は社外監査役)からなる監査役会を設置しています。常勤の監査役1名は、経営執行委員会をはじめ重要な会議に出席し、社外の監査役と情報の共有に努めています。

経営改革委員会 当社は取締役、執行役員、従業員その他当社の業務に従事するすべての者に対し、法令及び定款に適合する行動はもとより、誠実で倫理的な行動をとることを求めて、内部統制システムを構築しています。その一環として、コンプライアンス及びリスク管理に関する重要事項に関し、社

長執行役員を総括責任者とし、常務以上の執行役員、経営企画部長およびコンプライアンス部長をメンバーとした経営改革委員会を2006年12月から設置。また、当社の子会社にも経営改革委員会の設置を求め、当社と共同してグループ全体のコンプライアンスおよびリスク管理を確実にするためのマネジメントを実施しています。

その他の内部統制機能・体制 コンプライアンス部は日常のコンプライアンス活動を統括管理し、コンプライアンス上のリスクマネジメントを実施し、経営企画部は、各リスク別、各部門別の具体的なリスクの把握およびリスクのコントロールを図り、業務の適正と効率性を確保するために、各部のリスク管理を統括しています。さらに監査部を設置し、各部門及び当社の子会社も含めたグループ全体のコンプライアンス上のリスクの継続的な内部監査も実施しています。また、2006年5月に「内部統制システム構築の基本方針」を取締役会で決議し(2007年3月一部改定)、「取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確実にするための体制」などをはじめとする10項目の基本方針を定め、ホームページ上にIR情報として開示しています。



コーポレートガバナンス

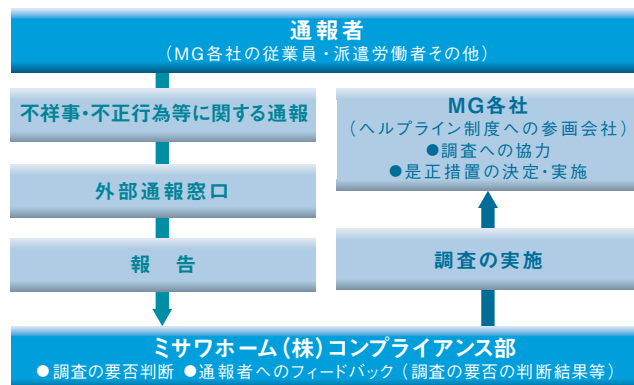
ヘルプライン ミサワホーム関係者が、グループ内における不祥事や不正行為などを見かけたり、起こしてしまった際に相談・通報を受け付ける制度です。不祥事の拡大防止や不正行為の是正などを実施し、グループの社会的信頼を維持することを目的としています。たとえば同僚や上司が不正を行っていた場合、誰に相談すればよいかわからないなどの悩みを解消するために設けられている制度であり、グループの自浄作用を促すものです。実名・匿名いずれでも通報できますが、実名の場合でも関係者に名前が漏れないように配慮しています。

■個人情報保護

ミサワホームは、お客さまのご信頼とご満足を第一に考えた企業活動を基本とし、お客さまその他の個人の方からお預かりする個人情報を大切に保護することを重要な責務と考えています。その責務を遂行するため、個人情報の保護に関する法律に基づき、プライバシーポリシーを定め、これに従って個人情報の取り扱いを行うことを、全社に徹底しています。また、お預かりした個人データへの外部からの不正なアクセス、個人データの紛失・破壊・改ざん・漏洩などへの危険防止に対する合理的かつ適切な安全対策を行っています。さらに

■コンプライアンス教育・研修

「経営理念・行動指針」を周知徹底させるため、「コンプライアンスガイドライン」と「コンプライアンスカード」を作成し、パート・派遣・契約社員を含むミサワホーム全社員に配布しています。また、コンプライアンスの重要性と一人ひとりの役割を認識させるために役職員に対して階層別のコンプライアンス研修を実施しています。2007年度の実施状況は右記の通りです。また、2008年度からは設計や建設といった専門分野の研修にも独禁法、不正競争防止法、製造物責任法、安全衛生法など、各分野で要求される関連法規制についてのコンプライアンス教育ガイドラインを定め、研修を充実していく予定です。



従業員などに対しては、個人情報の取り扱いに関する規程を定め、ルールを明確にするとともにガイドブックを作成し、社内研修を実施して個人データの適切な管理の周知徹底に努めています。また、個人情報に関する事故が発生した場合は、その内容と経緯、対応方法と再発防止策などをホームページ上で開示しています。昨年は子会社において住所・氏名などのお客さま情報の盗難、紛失事故が9件発生し、対象となるお客さまには直接、事実関係のご報告とお詫びを申し上げました。

ミサワホームグループ社長研修 1回実施・53社66名受講

ミサワホームグループ管理職研修 20回実施・541名受講

入社時コンプライアンス研修 13回実施・956名受講

コンプライアンスカード



2007年度CSR活動トピックス

お客さまと共に スマートスタイル オー 創立40周年記念商品「SMART STYLE O⁴⁰」を発売

自分らしさにこだわりを持つ、子育て世代をメインターゲットとした企画住宅です。40年間で培われた工業化住宅の技術と企画住宅のノウハウをもとに開発され、すぐれた基本性能はそのままに、プランの自由度向上や設備・仕様の充実と、コストダウンの両立に成功しています。プロが厳選したプランと、豊富なアイテムをご用意。間取り変更やカラー選択といったカスタマイズも可能で、企画住宅でありながらオリジナルな住まいを実現できます。



お客さまと共に ベルリード ホーム プラス 賃貸併用の収入邸宅「Belle Lead HOME plus」を発売

自宅にスリムメゾネットタイプの賃貸住宅をプラスした、収入邸宅「Belle Lead HOME plus」。普通に生活しながら賃貸住宅からの収入が得られ、オーナーさまが家づくりで負担に感じる資金やローン返済の問題を軽減します。オーナーさまも入居者もお互いのプライバシーを守れるよう、機能的な動線や視線、まちなみや近隣にも配慮して設計しました。土間エントランスなど、賃貸の新発想提案と自宅賃貸一体の外観が特長の収入邸宅です。



お客さまと共に ハイブリッド プラン ユー 美しく、無駄なく、自分らしく愉しむ住まい「HYBRID BLANC-U」を発売

地下・屋上空間をプラスし、都市部の限られた敷地を有効活用できる、鉄骨ラーメン構造の戸建住宅です。デザイナーズテイストのシャープな外観に、屋上・地下など、いわば非日常的な空間を取り入れ、都市部で暮らす“ちょっとした贅沢”や“こだわり”に応えます。たっぷりの収納空間「地下kura」や「小屋kura」が盛り込まれた2階建4層構造の住まいは、限られた空間を無駄なく利用することで、ゆとりある暮らしを実現。スカイルーフ、フィットネスコーナー、

土間コーナーなどの多彩な空間提案に加え、安心の防犯照明・お出かけスイッチや、地震時の揺れと収束時間を半減する制震装置「MGEO-H」も標準採用しています。



2007年度CSR活動トピックス

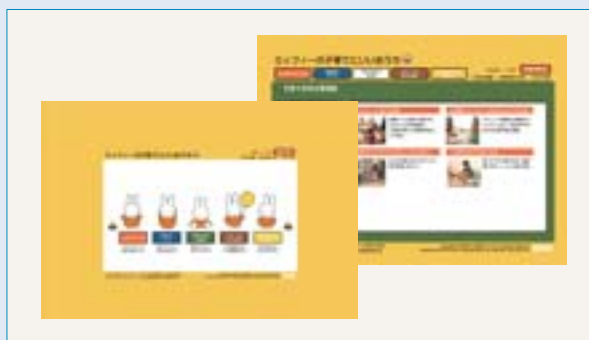
お客さまと共に ジニアス リンケージ 世代をつなぐ子育て住宅「GENIUS Link-Age」を発売

子どもの知性や感性を育み、家族の絆を深める子育て住宅です。子どもの目線で様々な空間を考えた「キッズデザイン」を採用し、安全を確保。健全な成長に必要とされる“8つの知性”をベースにした適正な刺激を提供しています。「センターヴォイド」は建物中央の階段を吹き抜けにすることで、家事をしながらも子供に目が届き、違う部屋にいても家族の気配を感じることができます。LDKと連続した「マルチスベース」は、多彩な生活シーンに対応します。



お客さまと共に ホームページ上に「ミッフィーの子育てにいいおうち」を開設

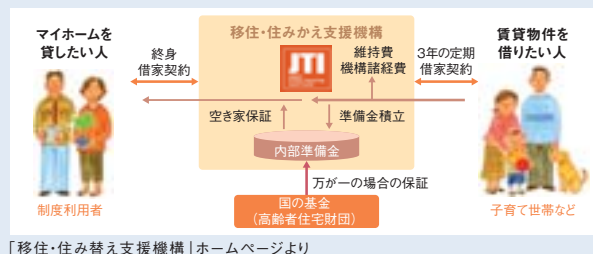
幅広い世代に人気のミッフィーをナビゲーター役にした、子育てに役立つ情報が満載のサイトです。「キッズデザイン100」では、子供の視点に立った商品開発や家庭内での子どもの事故調査などを通してまとめられた、100項目の住まいの工夫やアイデアを公開。項目それぞれについて意見や感想を投稿できるので、閲覧者同士の意見交換の場にもなっています。子育て世代のパパやママが、お子さまといっしょに楽しみながら家づくりのノウハウを学べます。



お客さまと共に 将来の安心をサポートする「移住・住みかえ支援適合住宅制度」の適用が可能に

有限責任中間法人「移住・住みかえ支援機構」(JTI)が推進する事業として、50歳以上のシニアからマイホームを借上げ、子育て期の若い家族などに転貸することで安定した家賃収入を保証する「マイホーム借上げ制度」があります。この制度を年齢制限なし、建物診断省略など、条件を緩和して利用できる「移住・住みかえ支援適合住宅制度」が新設され、ミサワホームはこれに関する覚書を業界で初めてJTIと締結。新築購入時に証明書の交付を受け

たミサワホームの住まいは、将来この制度の適用が約束されます。



「移住・住み替え支援機構」ホームページより

社会と共に 書籍『子育て日和』を発刊

子育てをテーマにしたエッセイ集『子育て日和』を発刊し、インターネット書店(amazon.co.jp)を通じて販売しています。創業時より「住まいは子育てのために」という信念のもとに商品を開発し、“家にできること”を真摯に考えてきたミサワホーム。住まいづくりに関わる“自分らしい子育て”を見つけるためのヒントになればという思いから、26名の専門家や著名人に子育てに関するテーマの執筆を依頼し、さまざまな視点から子育てを紹介しています。



社会と共に 18年連続でグッドデザイン賞を受賞

ミサワホームは2007年度、木質系住宅「GENIUS Link-Age」と「涼風制御システム」がグッドデザイン賞を受賞。18年連続の受賞となりました。また、1996年度グランプリの「GENIUS蔵のある家」がロングライフデザイン賞(Gマーク選定10年以上経過した商品が対象)を受賞。長い間お住まいいただく住宅が、社会資本としての価値を高く評価されました。



ロングライフデザイン賞「GENIUS蔵のある家」

社会と共に 第1回キッズデザイン賞を受賞

子育て住宅「GENIUS Link-Age」と「バルコニー手摺」、「SAFETY REPORT PROJECT」がそれぞれの部門において第1回キッズデザイン賞を受賞しました。子どもの成長に欠かせない“8つの知性”を取り入れた住まい、子どもの予想外の動作に配慮した手摺、家庭内での子どもの事故と予防対策をまとめた『住まいの安全を考える本—子どもの目の高さで安全点検』など、子どもの安全・安心と健やかな成長につながる生活環境の創出を目指しています。



バルコニー手摺



2007年
キッズデザイン賞受賞

2007年度CSR活動トピックス

社会と共に

在来木造住宅用制震システム「MGEO-N」を外販開始

エムジオ エヌ

2007年7月に発売した新築在来木造住宅(木造軸組み工法)用の制震システム「MGEO-N」は、地震時の震動を抑え、建物の変形を最大約1/2に抑えることで、構造体への損傷を軽減します。木造住宅の柱間に独自の「制震パネル」を入れる制震技術により、大きな揺れから小さな揺れまで対応が可能。また、取付け時に寸法調整が可能な仕様なので、プランや柱の太さなどの制約を受けずに設置することができます。敷地形状や地盤も選びません。



MGEO-N 施工イメージ

社会と共に

「バウハウスの住宅／バウハウスの家具」展を開催

ドイツの造形学校「バウハウス」が開校案内に掲載した宣言の冒頭には、創立者ヴァルター・グロピウスによって「すべての芸術活動の最終目標は建築である!」と高らかに謳われています。ミサワバウハウスコレクションでは、第20回目の企画展とミサワホーム創立40周年を記念し、改めてバウハウスの住宅や家具に焦点を当てた企画展を開催。当時の活動を模型、写真、学生の図面習作、現在でも人気の椅子の展示などで紹介し、好評を博しました。



マルセル・ブロイヤー作 1925年

社会と共に

千葉県柏市に「小規模多機能居宅介護事業所」を開設

介護度が中・重度となっても、住み慣れた自宅や地域において在宅生活を継続したい。そんな思いに応えるため、「通い」を中心として利用者の容態や希望に応じ、随時「泊まり」や「訪問」を組み合わせるサービスを提供する「マザアスホーム憩」が完成しました。隣地にはグループホーム「マザアスホームだんらん柏」があり、核となる介護付有料老人ホーム「マザアス南柏」も車で約5分と至近距離。地域に根ざしたネットワークで介護サービスを提供しています。



マザアスホーム憩

地球環境と共に

エムウッド ツー

「M-Wood2」が木材・プラスチック再生複合材業界初の新JISマークを取得

地球温暖化や資源の枯渇といった環境・資源問題を背景に、新しい分野として「木材・プラスチック再生複合材」がJIS化され、ミサワホーム独自開発のリサイクル素材「M-Wood2」が業界で初めて新JISマークを取得しました。耐久性や耐腐食性などにすぐれ、デッキ、門扉などエクステリア部に適しています。不要になれば回収して粉碎、再原料化し、何度でも製品化することが可能。資源循環型社会の実現に寄与する、環境配慮の製品素材です。



M-Wood2デッキ

地球環境と共に

「次世代ゼロ・エネルギー住宅」試行棟が旭川に完成

「年間に必要なエネルギーを上回るエネルギーが太陽光発電で得られる」のがゼロ・エネルギー住宅。次世代ゼロ・エネルギー住宅では、これまで以上に高効率なエネルギー利用を可能にし、建設時のCO₂まで回収することでライフサイクルエネルギー収支もゼロ以下にします。寒冷地の北海道・旭川に試行棟を完成。次世代省エネ基準の約2倍の断熱性能、高効率の省エネ機器採用など、これからの時代に求められる高い環境性能技術を盛り込んだ住宅です。



「次世代ゼロ・エネルギー住宅」旭川試行棟

地球環境と共に

ミサワホーム全工場のゼロ・エミッションを完了

生産工程から排出される廃棄物の埋立て及び単純焼却を行わず、リサイクル率を100%とするゼロ・エミッション。2007年度はミサワホームの8工場で達成し、これにより全国16ヵ所の工場すべてで完了しました。今後も、2006年度に策定した環境5ヵ年計画「SUSTAINABLE 2010」に基づいて、引き続き全施工現場での廃棄物削減及びゼロ・エミッション達成を目指し、さらなるCO₂排出量の削減などによる環境負荷低減を推進します。



松本工場



工場内部



HEART

深く信頼されるミサワホームをめざして

社会の責任ある一員として誠実に行動し、お客さまをはじめ、あらゆる人びとの「HEART」と深い信頼関係を築けるよう努めます。





HEART

お客さまと共に

ミサワホームグループは、すぐれた住まいづくりを通じてお客さまの満足度向上を追求します。

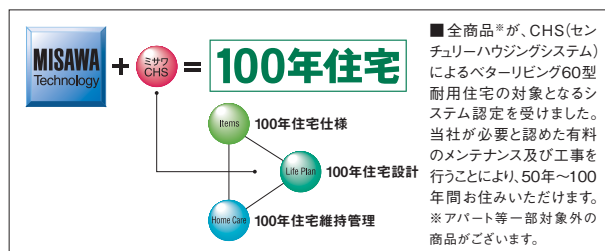
良質な商品の開発 ミサワホーム独自の卓越した技術・デザインにより、良質な商品を開発します。

chapter.1

長期優良住宅への取り組み

■社会的資産としての住宅

2006年「住生活基本法」が制定され、住宅政策はフロー（新築）からストック（既存住宅等）重視へと大きく方向転換されました。また、2007年は「長期優良住宅（200年住宅）」が提案されるなど、住宅業界には質を高め、長期にわたって使用し、社会全体の資産として活用できる住宅の開発が強く求められています。ミサワホームでは創業以来掲げてきた「住まいを通じて生涯のおつきあい」というコーポレートスローガンに基づき、業界に先駆けた長期保証制度の導入や、CHS住宅の認定取得、100年住宅の提案など、様々な住宅の長寿命化のための技術開発などに取り組んできました。これは、ご入居いただいたお客さまに末永く安心して快適にお住まいいただくための取組みで、「良質な住宅をつくり長期に使用する」という200年住宅の思想に合ったものです。これからは住宅を個人資産から社会的資産として捉え直すという、より大きな価値観を求められるようになります。新築時のお客さまだけでなく、世代を超えて様々な人々が引き継いで住まうことを前程に、既存住宅としてもその住宅品質を長く提供し続けることが必要と考えています。



■CHSの第1号評価を取得

CHS（センチュリーハウジングシステム）とは1982年に建設省（現在の国土交通省）が住宅の社会的、個人的資産価値を高め、豊かな社会づくりを目指して発表した構想です。ミサワホームは1985年に建設省よりCHSの第1号の評価を取得。1993年には国土交通省認可の（財）ベターリビングにより、業界で初めてCHS60型耐用住宅の対象となるシステム認定を受け「100年住宅」を誕生させています。窓まわり防水処理システムなど住宅の物理的耐久性をアップさせた「100年住宅仕様」、十分な広さや天井高の確保、間取りの変更を可能とする可動間仕切りシステムの採用などによるライフステージの変化に対応した「100年住宅設計」、長期にわたる維持管理やメンテナンスシステムが充実した「100年住宅維持管理」など、現在の200年住宅に求められている要件にいち早く対応しています。



1985年CHS評価第1号の「センチュリーA8」

築25年経っても新築同様の木質パネル

築25年のミサワホーム「O型」をリフォームする際に、壁や床の内部を調査しました。木質パネル芯材の含水率は壁・床ともに15%未満と、乾燥した良好な状態が保たれ、断熱材も新築同様の状態でした。これは、木質パネル内部に空気が流れ込みにくいことと、高い断熱性によるもの。壁体内結露が生じず部材の腐朽を長期間防ぐ高い耐久性を、実例が証明しています。



築25年のミサワホーム「O型」(東京)



パネル内部は良好な状態



chapter.2

耐震+制震技術

■耐震性にすぐれた構造を採用するミサワホーム

1995年の阪神・淡路大震災では大きな人的被害がりましたが、その原因の80%以上が倒壊した建物による窒息死や圧死だと言われています。壊れた家の多くは新耐震設計基準施行(1981年)以前に建てられた木造住宅で、柱や梁の接合部の脆さ、壁の少なさ、屋根の重さ、シロアリ被害や腐朽などが倒壊の主な原因でした。1981年以降の建築物は現在の建築基準法にもとづいて建てられてはいますが、欠陥住宅や構造強度が不明瞭な家、地盤強度自体の問題など不安要素は多くあり、地震対策は必ずしも万全とは言えません。ミサワホームの木質系住宅は、すぐれた耐力壁である木質パネル同士を面接合する「木質パネル接着工法」を採用。強固な一体構造を実現する「モノコック構造」となります。ハイブリッド系住宅はユニット工法による超高層ビルにも採用される「鉄骨ラーメン構造」。どちらもどの方向から荷重がかかって、全体に分散できる理想的な耐震構造です。



外力を分散して受け止める「モノコック構造」



鉄骨ユニットの接合部

その強さは、世界初の「実大3階建建物振動実験」(木質系)や「実大ユニット耐力実験」(ハイブリッド系)で実証済み。阪神・淡路大震災ではもちろん、創業以来マグニチュード7



実大3階建建物振動実験

を超える数々の大地震を経験してきましたが、建物の倒壊は棟もありません。住宅メーカーの責務として、すべての人が安心して暮らし続けられる、地震に負けない住まいづくりを推進しています。

※地盤に起因する被害は除く

■地震による変形量を約50%削減する制震装置「MGEO」^{エムジョ}

地震に強い住まいをさらに安心な住まいにするために、ミサワホームは地震の揺れを吸収して建物の変形量を約50%に抑える制震装置「MGEO」を開発しました。2004年に実施した実大振動実験では、13回の連続する巨大地震など合計39回もの加振を行っても、構造体の損傷ゼロはもちろん、内装仕上げ材にも目立った被害はありませんでした。地震で家が壊れないのは当たり前。地震後も安心して暮らせるように、内装仕上げ材の損傷ゼロまでも目指します。制震装置「MGEO」

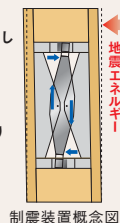


実大振動実験

は、壁の内部に複合テコ原理を応用した独自の変位拡大機構と、初めて戸建住宅用として開発された「高減衰ゴム」をセットした制震ダンパーを組み合わせた構造でできています。「高減衰ゴム」は住友ゴムグループのSRIハイブリッド社が、カーレースの過酷な環境で培ってきたレーシングタイヤの開発技術を応用してつくられたものです。また、ハイブリッド系住宅用には「MGEO-H」、木造軸組工法用住宅には新築用の「MGEO-N」とリフォーム用の「MGEO-R」を開発しています。

耐震+制震「MGEO」の特長

- 材質：鋼製、アルミ製
※敷地条件などにより、軽量で施工性を重視した、同性能のアルミ製を使用。
- 地盤・敷地・プラン条件：特に条件なし
- 設置数：1階に2カ所
(X方向、Y方向に各1カ所)
※建築面積100㎡以下の場合。
- 効果：繰り返し何度でも効果あり
- 耐風性：暴風・台風などにも効果あり
- メンテナンス：基本的にメンテナンスフリー



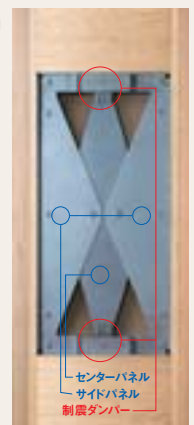
制震装置概念図



制震ダンパー内の高減衰ゴム



「MGEO」(アルミ製)

'06グッドデザイン賞
制震耐力壁「MGEO」(鋼製)

■業界最高レベルのホルムアルデヒド対策を徹底

頭痛や目の痛み、アレルギー性のぜん息や鼻炎、皮膚炎などの体調不良を訴える「シックハウス症候群」。これは建材などに含まれるホルムアルデヒドやVOC(揮発性有機化合物)が主な原因物質とされています。健康被害が相次いだ結果、2003年の建築基準法改正時にホルムアルデヒドの発散量の種別や使用部位などが厳しく制限されるようになりました。ミサワホームでは、この法律改正の前からいち早くシックハウス対策に取り組んできました。床・壁・天井の仕上げ材はもちろん、天井裏までJIS・JAS規格の

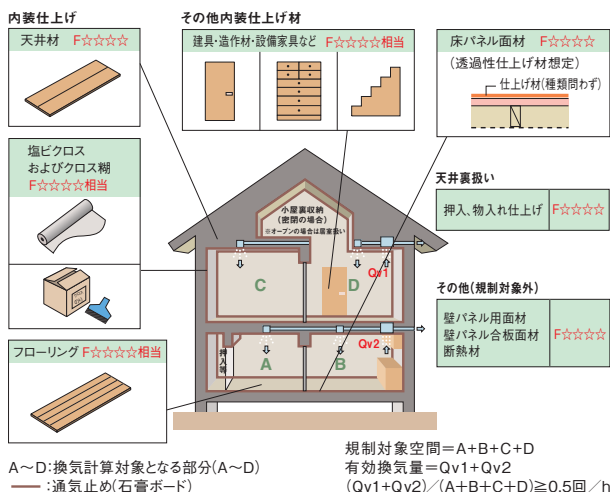
建築材料の区分	ホルムアルデヒドの発散	JIS、JASなどの表示記号	内装仕上げの制限
建築基準法の規制対象外	少ない	F☆☆☆☆	制限なしに使える
第3種ホルムアルデヒド発散建築材料	↑ ↓	F☆☆☆	使用面積が制限される
第2種ホルムアルデヒド発散建築材料		F☆☆	
第1種ホルムアルデヒド発散建築材料		旧E2、Fc2又は表示なし	使用禁止

建築基準法における規制対象建材

木質建材(合板、木質フローリング、パーティクルボード、MDFなど)・壁紙・ホルムアルデヒドを含む断熱材・接着剤・塗料・仕上げ塗材など※原則としてJIS、JASまたは国土交通大臣認定による等級付けが必要です。

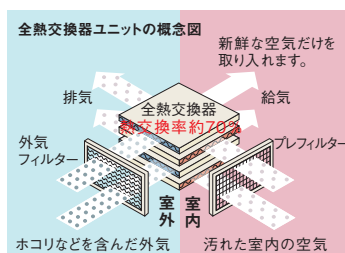
ホルムアルデヒド発散量基準でもっとも安全性が高い等級のF☆☆☆☆(フォースター)相当の建材を使用。また、接着剤にはトルエン、キシレンなどの化学物質を材料として含まないものを使用し、接着強度と安全性を両立。独自開発の内装仕上げ材「M-Wood」もノンホルムアルデヒドです。オリジナル家具にもF☆☆☆☆の建材のみを使用しています。

ミサワホームのホルムアルデヒド対策(木質系住宅)



■熱交換型24時間フロアセントラル換気システム

ミサワホームでは、業界に先駆けて1997年より「熱交換型24時間フロアセントラル換気システム」をすべての戸建住宅に標準装備しています。高気密設計を生かして住まい全体をひとつの空間のように換気することで、屋内の空気をスムーズに排出し、新鮮な空気を採り入れます。その際、給気と排気の間で熱交換を行い、冷暖房エネルギーのロスを最小限に抑制。0.5回/hという基準の換気量を確保しながら、換気



による実質熱損失は0.15回/h分(熱交換率約70%)です。室温に与える影響を抑えた換気が可能です。また、局所換気が必要な場所には、高い換気能力はもちろん、快適な暮らしを実現する換気計画をご提案。機能とデザイン性を兼ね備えたキッチンのシロッコファンや、センサー付パイプファンなど、適材適所に高性能な換気扇をご用意しました。

フロアセントラル換気システムの概念図

メンテナンスランプ付スイッチ

換気機能の強弱の調節と、ランプの点滅によりフィルターのメンテナンス時期をお知らせします。

換気システム本体+還気口

システム本体は天井にセットされスッキリ。本体の還気口からフロア全体の空気を排出します。

除菌イオンユニット(オプション)

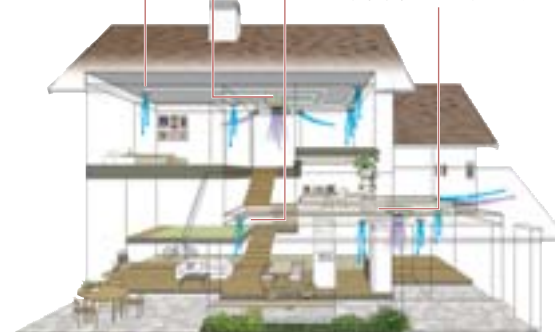
給気口の代わりにセットすれば、フィルターを通過できない空気の汚れに対して浄化効果があります。浮遊するカビ菌やダニの糞などを抑制。また悪臭を取り除く働きもあり、クリーンな室内環境をつくれます。

吹き出し口

1つの換気システムにつき4カ所設置。各居室に設置。

給排気ダクト

天井裏にセットされて露出しません。換気口(排出口)と取り入れ口の設置位置は調整可能です。





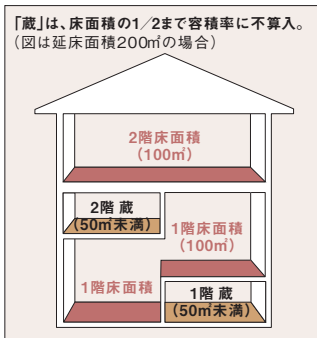
chapter.4

有効空間の拡大

■室内空間をヨコに広げる知恵

大収納空間「蔵」 あふれるモノをまるごとしまえて、居室をすっきり広びろ活用できます。^{※1}1階や2階の好きな位置に設置でき、複数設けることも可能。「蔵」は、設置階の1/2未満の面積で、天井高が1.4m以下という条件を満たせば、床面積に算入されません。^{※2}図のように1階と2階それぞれに「蔵」を設けた場合は、最大で1.5倍もの広さになります。

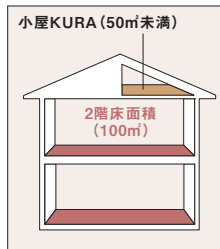
※1「蔵」は居室としての使用はできません。



大収納空間「蔵」

小屋KURA 小屋裏を収納スペースにします。2階の小屋裏を活用する「ロフトタイプ」と、1階の下屋部分の「居室出入口タイプ」があります。「蔵」と同じ条件を満たせば、床面積に算入されません。^{※2}

※2 自治体により算入しているところもあります。



小屋KURA

地下室 地下室自体を含めた延床面積の1/3までなら容積率に算入されません。書斎やAVルームなどに最適。

ビルトインガレージ 床面積の1/5までなら、容積率の対象外です。通常よりも広い家を建てられます。便利なガレージ収納も確保することができます。

■室内空間をタテに広げる知恵

多彩な屋根勾配・屋根形状と勾配天井・吹き抜け 厳しい斜線制限をかしこくクリアする「1/1勾配、1/2勾配、1/3勾配、2/3勾配」という4タイプの屋根勾配、バリエーション豊かな屋根形状により、それぞれの敷地の制限に対応し、上に住まいを広げます。また、小屋裏スペースを2階居室に取り込む「勾配天井」、強い構造体を実現した大きな「吹き抜け空間」などの内部空間づくりで、床面積の数字には表れない、タテに広いゆとりの空間をご提案します。



勾配天井

軒の出ゼロ・桁落とし どんな敷地条件でも対応するため、910mmからゼロまでの「軒の出」や一部の高さを低くする「桁落とし」をご用意。



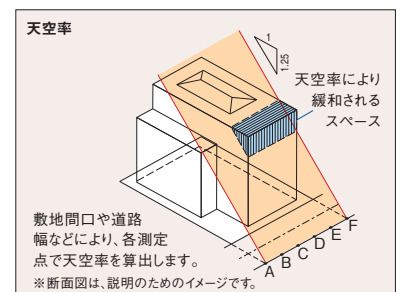
桁落とし

セットバック 道路斜線をクリアする方法に、道路から少し離れて家を建てるセットバックがあります。道路から1m後退するだけでも、高さを2.5mも上げられます。



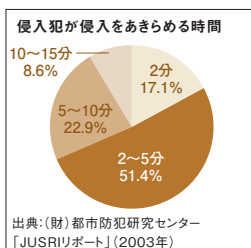
セットバック

天空率 天空率は、確保される採光・通風などのひとつの指標。計画建築物により確保される天空率が、現行の斜線制限により確保されるものの天空率と同程度以上の場合、斜線制限は適用されません(ただし日影規制、高度斜線制限は除く)。天空率により、柔軟な設計が可能となりました。



■高まる防犯対策ニーズ

かつては安全な国といわれた日本でも、防犯対策に対するニーズは高まる一方です。ミサワホームでは、これからお住まいを建築する皆さまに、「どんな家が狙われやすいか」をぜひご理解いただき、万全の対策を講じたうえで安心してお住まいいただきたい、と考えています。用意周到な侵入犯に対応するには、開口部やドアを中心に、あらゆる手口を想定した住まいづくりが欠かせません。二重、三重の慎重な防犯システムやアイテムの備えが大切です。また、侵入に5分以上かかるとあきらめる場合が多いという調査結果

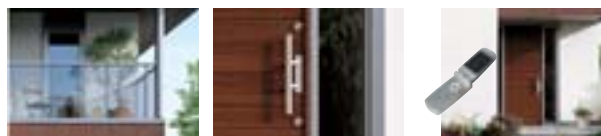


もあります。そこでミサワホームでは、「狙われにくい」「侵入しにくい」「被害の出にくい」という「3段階セキュリティ」をご提案。すみずみまで安心できる住まいを実現します。

狙われにくいセキュリティ 周囲からよく見える住まいこそ、空き巣が嫌います。エクステリアは見通しがきく生け垣などに。2階は、外から室内が見えない配慮はしながらも、バルコニーはきちんと見えるガラスなどの手すりが適しています。

侵入しにくいセキュリティ ガラス破りを防ぐため、特殊フィルムをはさんだ「防犯ペアガラス」を使用。そのうえで「錠開け」「破壊行為」対策のため、合わせガラスやピッキングに強い錠など、多彩な防犯配慮を実施しています。

被害の出にくいセキュリティ もし侵入を許しても、侵入者を警報音で威嚇するとともに音声で知らせるセンサー・受信機、すばやくご家族の携帯電話などへ連絡できるシステムなどをご提案。また、セキュリティBOXもご用意しています。



外から見通しのきくバルコニー 「錠開け」がしにくい玄関ドア 万一の際は携帯電話に自動通報

■ミサワホームは「2段階バリアフリー」

ミサワホームは、家族のニーズの変化に対応できるフレキシブルな「2段階方式」のバリアフリー住宅をご提案しています。バリアフリーに配慮した設備を、必要が生じたときに随時付加していくという発想に基づき、新築の段階では後々の改築・改造を視野に入れた設計を施し、最小限の設備だけを付加してコストを抑えます。そして将来、バリア(障壁)が見えてきた時点で適切な設備を追加していきます。住む人の変化に合わせた「可変的」住宅といえます。

■玄関、廊下、階段のバリアフリー

ミサワホームがご提案する「幅広玄関」は、床段差を最小限に抑え、玄関框も上がりやすい高さに設定。玄関手すりもご用意しています。「幅広廊下」は、品格法の住宅性能評価で最高等級に相当する幅850mm以上を確保。ゆとりと安全を兼ね備えた設計です。また、「階段」は勾配を緩やかに設計し、つまずきやすい蹴込みを小さく調整するほか、手すりは途中で握り替える必要のない連続手すりを採用。夜間も安心のフットライトなどもご用意しています。



床段差を抑えた玄関



上がりやすい玄関框



幅広廊下



階段連続手すり



フットライト



良質なサービスの提供 万全のアフターサービス体制など、お客さまサービスの向上に努めます。

chapter.1

消費者志向優良企業表彰

■住宅業界で初めての受賞

ミサワホームは住まいと暮らしのよきパートナーであるために、つねにお客さまの視点に立って企業活動を進めています。構造体の20年保証を実現した「新築住宅保証」など業界をリードする保証制度や「365日・



24時間体制」など万全のサポート体制などが評価され、1997年、ミサワホームは住宅業界で初めて「消費者志向優良企業」に選ばれました。「消費者志向優良企業」表彰制度は1990年に発足し、消費者利益の保護に積極的で、消費者志向体制が整った優良な企業を経済産業大臣が表彰しています。お客さま満足を第一に考えるミサワホームの住まいづくりが、高く評価された結果といえるでしょう。

chapter.2

365日・24時間体制

■災害時待機体制

ミサワホームでは、緊急のご用件でもすみやかに対応し、迅速に処理できるよう「365日・24時間体制」でオーナーさまの暮らしを見守ります。また、不測の事態や万一の事故に対して、しっかりとした備えをしておくことも、オーナーさまへの大切なア



万一の際も安心の「365日・24時間体制」

フターサービスのひとつ。ミサワホームでは、たとえば台風が接近してきた場合、その規模や進路などの状況に応じて、工場、メーカー、ディー

ラー、指定工事店がそれぞれ24時間体制で待機。すぐさま適切に緊急体制がとれるようになっています。

■大地震にも安心の住まいと緊急対応

また大地震発生時は、建物の被害はなくても水道・電気・ガスなどのライフラインが寸断されたり、内装の軽微な損傷などが発生し、オーナーさまの生活に不便や不安を生じる可能性はあります。ミサワホームでは災害発生時において、被災者の住生活と心身の安全・安心を一刻も早く確保することが住宅会社における社会的使命だと考え、速やかに現地対策本部を設置するなど、緊急対策について十分な準備体制を整えています。

chapter.3

お客様相談センター

■休日や夜間でのトラブルにも対応

ミサワホームにお住まいのすべてのお客さまを対象とした「お客様相談センター」を開設しています。販売・施工を担当するディーラー各社の休日及び夜間に対応するもので、これにより365日・24時間にわたるお客さまサポート体制が拡充。同センターはミサワホームで独自に構築されたシステムを活用し、コールデスクのコミュニケーターが受付・対応し、専門的な対応はサポートデスクが分担します。

■1時間以内対応・5日以内完了

2007年度は23,100件を受付。オーナーさまから給湯器や水洗金具のトラブルなど緊急対応を要するものを含めた修理依頼が38%、ご相談・お問い合わせが30%を占めています。ミサワホームではトラブル等への対応について原則として1時間以内対応、5日以内完了、7日以内には対応後の状況をお伺いする「いかがですかコール」の実施と、オーナーさまにご満足いただけるようなルールを定めています。

■20年の長期保証制度

ミサワホームでは「住まいを通じて生涯のおつきあい」をモットーに、住宅業界に先駆けて、画期的な3つの長期保証制度を確立。「新築住宅保証制度」は、新築住宅の構造体、防蟻、防水および仕上げ・付属部品・設備に対して保証する制度です。住宅の品質確保の促進に関する法律では、基礎、床、屋根などの構造体に10年間の瑕疵担保責任が定められていますが、ミサワホームではそれを大幅に上回る最長20年保証を実現。「維持管理保証制度」は、「新築住宅保証制度」による保証期間満了後も定期点検および有償耐久工事を施すことで、構造体、防蟻および防水の保証期間を延長する制度です。さらに「既存住宅保証制度」では、既に保証が満了している特定の専用住宅に対しても、住宅の売買時など必要な場合に有償点検および有償耐久工事の実施を条件に再保証を実施。再保証期間は耐久工事完了後より構造体10年、防蟻10年、防水5年間で、

■ご入居後の充実したサポート体制

安心の保証制度に加えて、ミサワホームではご入居後のサポート体制も充実しています。住宅お引渡し後6ヵ月目、11ヵ月目、23ヵ月目の「定期巡回サービス」では、メンテナンスのプロが住まいの状態をチェック。さらに5年目、10年目、15年目、20年目の「定期点検サービス」も無償で実施し、以後は5年ごとに有償点検を行っています。60年にわたる長期点検制度で、住まいの末永い安心を実現します。また、ご入居後の暮らしをより充実したものにしたいという、ミサワホームのオーナーさま向けにさまざまな冊子を発行しています。住まいの維持管理方法を詳しくご紹介している「ホームケアハンドブック」や、安全にお住まいいただくための情報をまとめた「安全のしおり」、住まいに関するお役立ち情報を満載した「ホームデザインクラブ」なども充実。ミサワホームのウェブサイトにも、最新の「オーナーサポート」情報などが満載です。

技術力で長期保証の末永い安心

ミサワホームは、一歩先の保証・維持管理制度を導入		
	保証区分	
	新築住宅保証	維持管理保証※
構造体	20年	10年毎延長
防蟻	10年	10年毎延長
防水	10年	5年毎延長
仕上・付属部品・設備	2年	—

※点検による有償耐久工事によって、延長されます。



定期巡回・定期点検サービス



ホームケアハンドブック

■最新の住まいづくりを体感

ミサワホーム本館内(東京都杉並区)に、住まいの体験型施設「ミサワパーク東京」を開設しています。大地震の揺れを体感できる「地震シミュレーター」や「南極昭和基地の建物」をはじめ、独自の「ECO・微気候デザイン」や大収納空間「蔵」など、住まいづくりに役立つ先進の技術やデザインを体験できます。また、ミサワホーム岡山工場・福岡工場内にも同様の施設「ミサワファクトリー」がオープンし、工場の生産ラインなどの見学とあわせてお楽

しみいただけます。さらに名古屋工場では、ハイブリッド住宅の工場見学「ミサワファクトリーツアー」を実施しています。



住まいづくりの新提案ゾーン



地震シミュレーター



chapter.6

ミサワホームイング

■リフォームをトータルにお手伝い

住まいの増改築から模様替え、暮らしの快適リフォームをトータルにお手伝いするのが「ミサワホームイング」です。住まい全体をまとめてリフォームする「まるごとホームイング」をはじめ、環境に配慮したリサイクル素材「M-Wood」による空間提案、独自の「かぶせ工法」による屋根・外壁のグレードアップ、健康と環境保全に配慮した「無公害防蟻工法」など、ミサワホームイングならではの先進技術を活用して、ご満足いただけるリフォームをご提案しています。ミサワホームが戸建住宅で培った経験やノウハウをいかし、お客さまのご要望にきめ細かくお応えします。



リフォーム前

■業界初のグッドデザイン賞を受賞

「ホームイング」は「Home+ing」。愛着のある住まい(Home)をいかし、いつまでも現在進行形(ing)で手を加えながら、より快適な暮らしを実現して資産価値を高めることを意味しています。そのコンセプトや、環境に配慮した素材・工法・部品などが高く評価され、リフォーム業界では初のグッドデザイン賞(2001-2002)を受賞しました。



リフォーム後の事例

chapter.7

オーナーサービス

■専用サイト「MISAWAオーナーズクラブ」を開設

インターネット上にオーナーさまの会員制サイト「MISAWAオーナーズクラブ」を開設しています。暮らしに役立つ多彩な情報や、メンテナンスに関するお知らせなどを随時発信しているほか、各種ご相談窓口やオーナーさま同士の交流をお楽しみいただけるコンテンツなども充実しています。



MISAWAオーナーズクラブ

■充実のライフサポートサービス

ミサワホームでは、ご入居後のよりよい暮らしをトータルにサポートするサービス内容も充実しています。右の一覧のように8カテゴリー・30種類以上の生活・サービス特典を付け、すべてのオーナーさまにご提供しています。



(2008年8月現在)



HEART

従業員と共に

ミサワホームグループは従業員の個性を尊重し、その成長を支援します。

労働環境の整備 従業員一人ひとりがいきいきと働ける労働環境を整備します。

ミサワホームの雇用状況(2008年3月31日現在)

従業員数 本社770名・連結9,877名
女性社員比率 本社133名(17%)・連結1,792名(18%)
障害者比率 21名(1.57%)※7/1現在・本社のみ
非正規社員 337名 ※本社のみ

2008年度新卒採用 本社:男性29名・女性20名・計49名
連結:男性237名・女性112名・計349名
平均勤続年数 本社:男性15年・女性11年

chapter.1

人事評価制度

■新人事処遇制度の導入

ミサワホームでは2004年7月より、納得性の高い処遇を実現し、社員のやる気・やりがいを高めることを目的とした「新人事処遇制度」を導入しています。ねらいは①社員のやる気を引き出し、組織を活性化する、②属人に依らない透明性のあるマネジメントを確立する、③連結経営の中で真のグループ人事管理を実現する、④個々の社員のキャリアを充実したものとする、の4つです。それらの実現のために「処遇の改革」「育成の改革」「配置の改革」「採用の改革」を掲げ、施策展開をしています。



■「業績評価」と「コンピテンシー評価」

ミサワホームの人事評価制度は「目標による管理制度(MESSE)」による「業績評価」と、「コンピテンシー評価」で構成されています。「業績評価」については賞与査定にダイレクトに反映させる一方、その成果を持続的に発揮する行動についての「コンピテンシー評価」を行い、その両方を昇給査定・昇格選考に反映させることで、バランスのとれた評価を実現しています。「業績評価」は目標管理制度に基づき、半期の業績をその課題の難易度と達成度を測定・判定することで評価。「コンピテンシー評価」は、職務遂行を通じて実際に行われた行動について、まずは半期ごとに評価を行い、年度末において、職務要件に照らして総合的に判断し、最終的な通期評価(1年間)を行います。

chapter.2

社員育成制度の充実

■MG教育研修



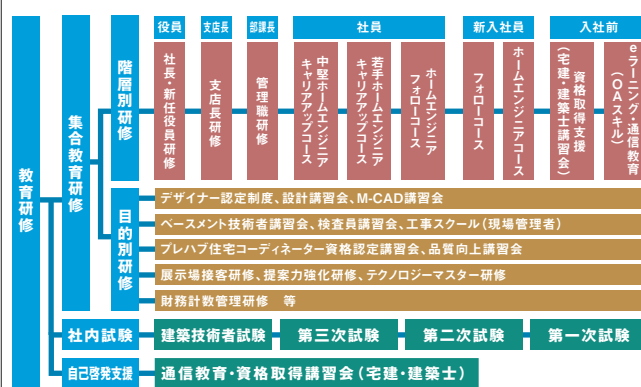
社員教育研修

ミサワホームでは「MG(ミサワホームグループ)教育研修規定」を設け、教育研修の基本的事項を定めています。この規定の基本方針は、グループ

社員の向上心と自己啓発意欲を喚起、助長し、各人が自ら人格の統制と資質の向上に努めるべく教育研修の機会を提供するとともに、現在および将来の業務上必要とされる知識・技能および態度を習得させ、グループの発展と社会的使命の達成に寄与する人材を育成することを目的としています。この規定に基づき、新入社員から経営者にいたる全階層に対し、それぞれに期待される知識・技能及び態度

などを習得させる「階層別研修」を導入。また、2007年度からは経営理念・行動指針の周知徹底を図るためにコンプライアンス研修を拡充し、一般社員・管理職はもとより、販売会社の社長を含めたトップに対しても研修を実施しています。

MG教育研修



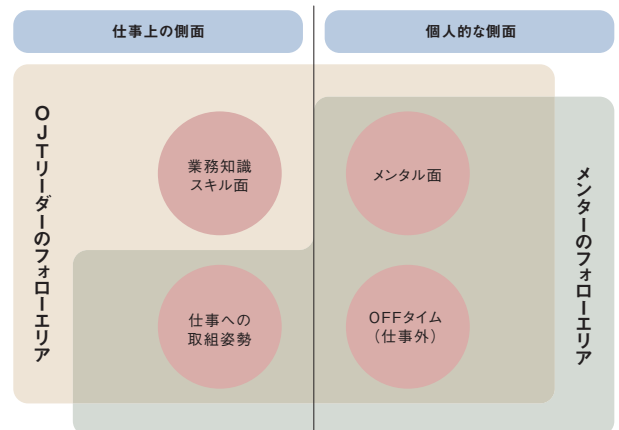


chapter.3

新卒者のフォロー体制

■OJTリーダー制度・メンター制度

新入社員に対する育成・フォロー制度を実施しています。同一部署内で業務を通じてマンツーマン指導するリーダーを任命し、業務面・精神面のフォローに当たってもらう「OJTリーダー制度」(今年度は27名をリーダーに任命)、別部署のリーダー級人材に、主に業務・スキル以外の分野の相談相手になってもらい、社内コミュニケーションの補助や精神的な面での支えとする「メンター制度」(今年度はメンティ49名に対しメンター26名を任命)です。多くの若手人材が新入社員に「かまう」ことで、フォローする体制を整えています。



chapter.4

満足度調査の実施

■MGモチベーションサーベイ

ミサワホームではグループ社員が仕事に対し、常に意欲的な気持ちで取り組むことができるよう、2003年より「従業員意識調査」を実施しています。これは社員の仕事や会社に対する意見・意識を直接的に確認することにより、今後の人事施策の参考として活用することと、社員のモ

チベーション阻害要因を早期に発見し、改善に努めるために実施しているものです。2005年からは「MGモチベーションサーベイ」として、対象を連結子会社を中心としたグループ企業全体に拡大して実施。この調査結果を通じて、LQ休暇制度の導入や、育児・介護支援制度の拡充などの職場環境の改善が図られています。

chapter.5

休暇・休業制度の充実

■LQ休暇

ミサワホームでは2005年より、従来の夏期休暇(3日間)と創業記念日(10月1日)をフレックス化し、これに有給休暇1日を加え年間を通じて任意の時期に取得できる「LQ休暇制度」を採用しています。「LQ」とは「Life Quality(生活の質向上)」と「Long(長い)休暇(Q)」を掛け合わせた造語で、個人の働き方、生活に合わせた休暇を充実させ、仕事と生活の質の向上を図ることを目的としています。この制度を利用することで土曜・日曜日の定休日と合わせて最大9日間の連続休暇の取得が可能となります。

■育児・介護支援

2006年に策定した「中長期経営ビジョン」の「100年サポートできる経営基盤」づくりの一環として、中期経営計画

では社員の永続的成長を積極支援し、企業成長の礎とするという人事戦略を掲げています。そのために多様な働き方を尊重し、ワーク・ライフ・バランスの確立を支援するための各種支援制度の拡充を図っています。2007年4月からは「育児・介護休業規定」を改定し、通常の育児休暇とは別に、育児を行う社員の「勤務時間の短縮の措置」の適用上限年齢を、「子が3歳に達するまで」から「満10歳到達後の3月31日(小学校4年生末)まで」に大幅に延長しました。また、この措置は育児以外でも、要介護状態にある家族を介護する場合にも適用が可能です。

制度利用状況(2007年度)

育児休業: 4名

介護休業: 0名

時短措置: 12名



HEART

取引先と共に

ミサワホームグループは取引先との共存共栄をはかり、対等な関係と公正かつ自由な取引を行います。

協力・教育・啓発 仕入先企業や施工工事店の方々とのコミュニケーションを推進しています。

chapter.1

仕入先企業との協力体制

■仕入先企業協力会「センチュリー会」

ミサワホームでは、オーナーさまにご満足いただける快適な住まいを提供するためには、新しい素材や機能を有した住まいの開発・品質管理・資源保護・環境保全などが極めて重要であると考えています。2006年度から現在まで、仕入先企業110社と相互に発展していくために「センチュリー会」を発足し、2008年度は5部会構成（2007年度は4部会）で活動を実施しています。活動テーマとしては、①環境

負荷低減活動、②安全・品質・CS向上、③現場生産性の向上を掲げ、より快適な住まいをご提供していくための企業活動を仕入先企業と協力のうえ、推進していきます。



センチュリー会

chapter.2

施工店への施工教育

■施工品質を確保する作業員養成

ミサワホームでは、新規にミサワホームの工事を請け負う全国施工工事店の職方を対象に、ミサワホームにおける施工の基本知識の習得を目的とした工事スクールを実施しています。また、業種別における施工品質の確保を目的とした研修会を定期的に開催。ミサワホーム販売代理店では、社内規定で定められている検査・管理を実施した上で、社内基準・マニュアルに基づいた適切な施工方法を、現場ごとの現場作業員に対して指導・教育しています。その他、定期開催する施工工事店を集めた会議により、ミサワホーム

の新規技術、各工事店が持つノウハウ、さらに施工技術に関する情報を共有し、指導、教育の啓発活動を通じて、より高いスキルをもった作業員の育成が行われています。今後は、将来の施工力確保に向け、ミサワホーム、販売代理店、施工工事店が連携した教育体制、施工技能者の資格制度実現を目標に掲げ、さらに努力していきます。



工事スクール

chapter.3

安全大会・安全体制

■施工現場の安全を確保する活動推進

ミサワホームでは、施工現場での労働災害を撲滅するために、階層別教育をはじめ、安全パトロール、安全大会など、さまざまな活動を行っています。また、施工現場での安全意識を啓発するためのツールを適宜提供し、充実を図って

います。なお、従来の是正処置型安全活動から予防処置型の労働安全衛生マネジメントシステムによる安全活動への切り替えを検討しています。具体的には「P.D.C.A」サイクルの定着により、安全管理体制を再構築し、年ごとに確実にレベルアップできる管理体制づくりを目指しています。中でも、マネジメントシステムの核となる「リスクアセスメント」への取り組みをスタート。危険・有害要因を調査し、軽減処置を実施し、リスクの除去及び施工現場での「危険低減目標活動」を継続して推進しています。



安全に配慮した施工現場



HEART

株主(投資家)と共に

ミサワホームグループは企業価値の向上に努め、経営情報を適時かつ適正に開示します。

経営指標及び開示方針 経営情報の迅速かつ公平な開示に努めています。

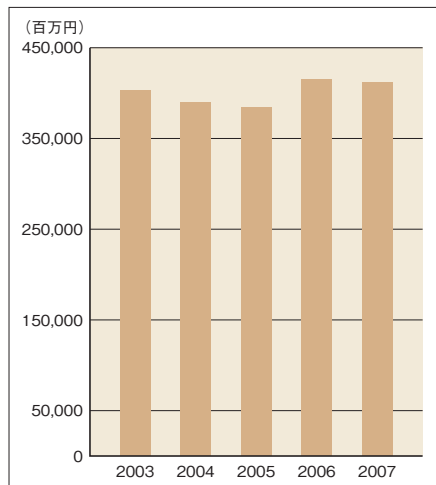
2008年3月期(2007年度)の連結経営成績は、売上高4,092億円(前年比1.3%減)、営業利益77億円(前年比40.3%減)、経常利益64億円(前年比46.7%減)となりました。景気の不透明感による消費マインドの低下などから売上棟数が減少し、また原油高を背景とした原材料価格の高騰が利益面を圧迫し、減収減益となりました。

連結

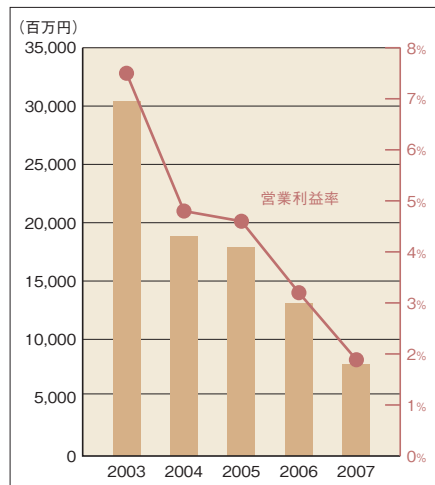
(百万円)

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
売上高	403,127	389,595	383,941	414,566	409,245
営業利益	30,364	18,860	17,882	13,065	7,798
経常利益	20,368	11,463	14,564	12,069	6,430
当期純利益	▲129,133	▲203,251	124,024	191	389
売上高営業利益率	7.5%	4.8%	4.6%	3.2%	1.9%
売上高経常利益率	5.1%	2.9%	3.8%	2.9%	1.6%

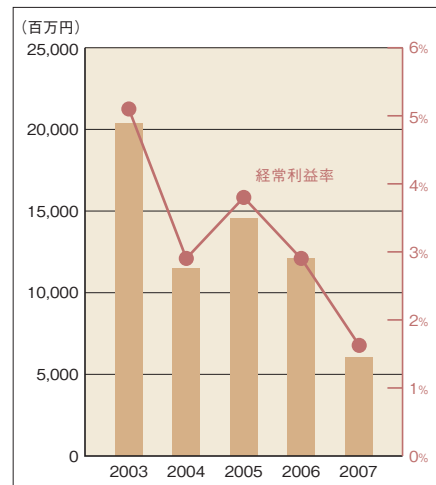
売上高



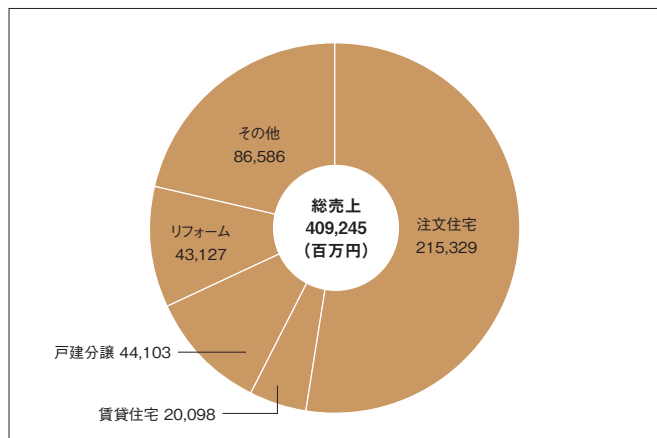
営業利益



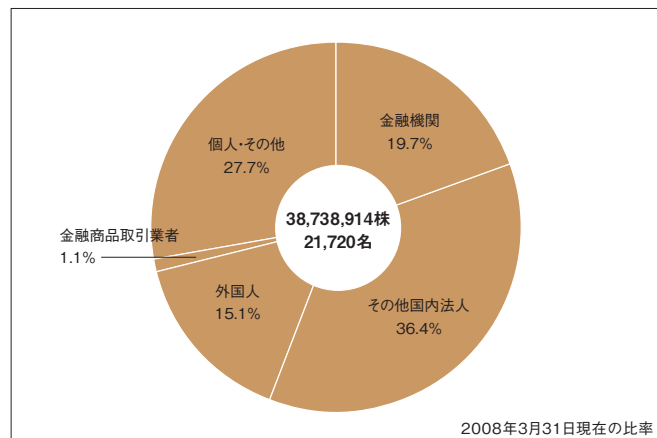
経常利益



2007年度セグメント別売上高



所有者別持株構成(普通株式)



■株主への配当方針

当社は安定配当の維持を基本としつつ、利益の状況と事業展開を総合的に勘案し、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当について

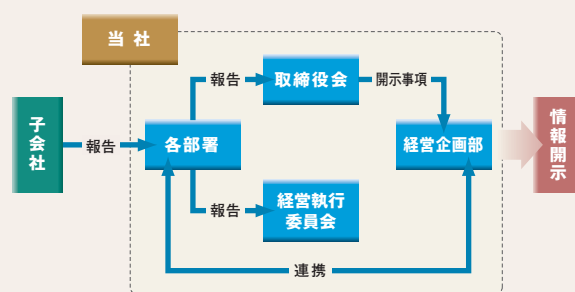
は取締役会となっています。なお、当社は取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めています。また、2008年3月期の配当については、繰越利益剰余金が欠損となっているため、見送りとさせていただきました。

■適時開示に係る基本姿勢

ミサワホームはグループの経営ビジョンとして、「社会・お客さま・株主・従業員に満足を提供する」を掲げるなど、株主・投資家との信頼関係を構築・維持するために、重要な会社情報の適時適切な開示が極めて重要な責務であるとの認識に立ち、従来より鋭意適時開示に取り組んでいます。取締役会および経営執行委員会などで決定した事項や子会社および各部署で把握した事項のうち、金融商品取引法および東京証券取引所の定める適時開示規則により開示が要請される重要情報ならびに投資判断に影響を与えと思われる情報などについて、適宜開示活動に努めています。また、社長をはじめとした主要執行役員ら経営陣が、率先して説明責任を果たしています。開示活動の実際にあたっては、経営企画部が主管部署となり、子会社および関連部署と連携して速やかな

開示に努めています。ミサワホームグループの内部統制活動の監視・検証としては、監査役の会社法上の監査のほか、弁護士など各分野における専門家の意見を参考にコンプライアンス体制の構築に努める中で、経営会議への報告を行うことにより、健全な業務執行の維持・向上に取り組んでいます。

適時開示に係る当社の社内体制等の状況



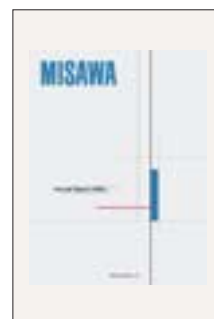
■IR情報の開示

ミサワホームでは、中間・期末の決算発表後に、機関投資家・証券アナリストの皆さまを対象とした説明会を開催しています。説明会にて頂戴したご意見・ご質問は、証券市場の声として真摯に受け止め、経営やIR活動に反映できるよう努めています。また、工場や展示場などの施設見学会を開催し、当社に対する理解促進を図るとともに、機関投資家・証券アナリストの皆さまと良好な関係を築いています。個人投資家の皆さまには、株主通信を年2回発送しています。さらに当社ホームページのIRサイトに、決算説明会で使

用したプレゼン資料や適時開示情報、英語版のアンニュアルレポートを掲載し、迅速かつ公平な開示に努めています。



IR説明会



アンニュアルレポート



HEART

社会と共に

ミサワホームグループはあらゆる地域で、社会資産をデザイン及びストックします。

まちづくり 人にも自然にもやさしい、快適に暮らせるまちづくりを通じて社会に貢献します。

chapter.1

優良な社会資産としてのまちづくり

住まいや土地の資産としてのあり方が見直されつつあるいま、環境に配慮した街が、その資産価値を高く評価されている例が多く見られます。環境が新しい価値を創造しています。ミサワホームでも、自然環境、医療環境、教育・文化環境、ショッピング環境、交通環境という5つの環境を大切に考え、優良な社会資産として受け継がれていくまちづくり開発を全国各地ですすめています。



太陽光発電住宅モデル団地「ヒルズガーデン清田」

①**自然環境** 自然の地形と植生をいかしながら環境づくりを行う、ランドプランニングを重視。電話配線や電柱は地下に埋設し、数十年後の街並まで想定した植栽計画を実施。一年中季節の花が楽しめる美しい環境と、人々が集うコミュニティの実現をめざします。

②**医療環境** 日本は世界有数の長寿国。健康で生き生きとした老後のためにも、医療環境の整備は欠かせません。近くに病院をつくり、病気になったときの往診や緊急時の対応を病院と契約したり、健康センターや介護施設などのインフラも充実させていきます。

③**教育・文化環境** 教育環境は、子育てのうえで重要な要素。周辺に幼稚園や小学校、中学、高校などの学校があるのはもちろん、学習塾や習い事場が豊富なことも大切です。また、図書館、美術館、コンサート会場など、生涯学習の視点からも環境を考えます。

④**ショッピング環境** 「住」と並んで「衣」「食」は、日常生活の基本条件。だからこそ、商店街やデパート、スーパーマーケット、コンビニなどは利用しやすい場所にあることが大切です。また利便性だけでなく、品質や品揃え、味や店の雰囲気といった点も重視します。

⑤**交通環境** 高速道路、新幹線、地下鉄などの交通網が現在のように発達してくると、時間距離が問題になってきます。都心から何キロメートル離れているかではなく、どれだけの時間がかかるのかという視点で、列車やバスなどの身近な交通環境から検討していきます。

chapter.2

五感にやさしいまちづくりの推進

歴史や気候風土に培われた、環境調和型のまちづくりに取り組んできたミサワホーム。将来にわたり住環境の優良なストック形成、個人の資産の保全などを目的として5つのテーマに基づいて、五感にやさしいまちづくりを推進し、その成果は数々の建設大臣表彰などの受賞として認められています。



京都桂坂



9年後



オナースビル神戸学園都市



8年後

①**微気候デザイン** 風の流れや太陽の光を上手にコントロールして、快適に暮らしてきた日本の伝統的な生活の知恵を、現代の技術と融合させることによって、エネルギーの消費を抑えながら四季を通じて心地よい、健康的で地球にやさしい住環境をつくります。

②**エリアプランニング&プライバシーデザイン** まちづくりとは、1棟の住宅設計では実現できない豊かな住環境を創造することです。ミサワホームは「おもいやり設計」によってまちづくりを考え、自然の地形や気候特性をいかし、隣り合う建物同士が快適さを共有できるストレスのない住環境を創造します。

③**コミュニティ** ミサワホームは、そこに暮らす方々とともに作りあげることによって、まち全体がひとつの環境になることをめざしています。安全で安心な暮らしには、防犯配慮の外構設計をご提案。まちづくりを通して、地域のコミュニティをクリエイティブ(創造)します。

④**育てるまち** 年月を重ねるごとに味わいを深め、緑ゆたかに熟していく…。そこに暮らす人々とともに環境そのものが豊かさを増し、魅力的に成長する姿を「年輪美」と名づけ、将来にわたってその価値を高めていくことのできるさまざまな工夫を提案します。

⑤**オーナーズライフ** 愛着をもって育てられた住環境には、時間の経過とともに新たな環境価値が生まれ、その魅力もいっそう増していくものと考えています。そのまちに暮らすことを誇りに感じていただけるまちづくりに、ミサワホームは真剣に取り組んでいます。

ミサワホームは、先人の知恵と先端の技術を融合させて住まいと屋外環境にわたる住環境全体を設計することを“微気候デザイン”と名付けました。微気候とは、住まいとその周辺の局地的な気候のことで、夏涼しく冬暖かく変えることが可能。ミサワホームでは、この“微気候デザイン”の手法を導入したまちづくりに全国各地で取り組んでいます。

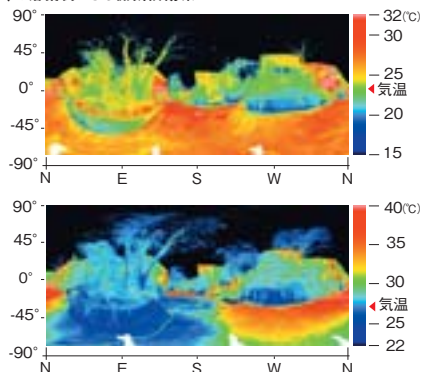
■宮崎台・桜坂

神奈川県川崎市宮崎台のなだらかな丘陵の上に自然に包まれるように住宅が配置された一角「宮崎台・桜坂」があります。敷地内の大きなサクラ、ケヤキ、ナラの木を縫うように戸建住宅がやわらかな街並みを構成して、ありのままの緑と地形を活かしたランドプランニングは、四季折々の自然が楽しめる良好な生活環境を創り出しています。ミサワホームではこの宮崎台における“微気候デザイン”の効果を東京工業大学大学院の梅干野研究室と合同で実測調査を行いました。赤外線放射カメラを用い、全表面温度シミュレーションによりスキャニングし、周囲にある物体の表面温度を捉えた結果、春と初夏のそれぞれですぐれた落葉樹による微気候効果を確認。また、宮崎台・桜坂は2001年に住宅地としてグッドデザイン賞、2004年に環境建築賞優秀賞を受賞しています。



宮崎台

春(上)と夏(下)の落葉樹による微気候効果



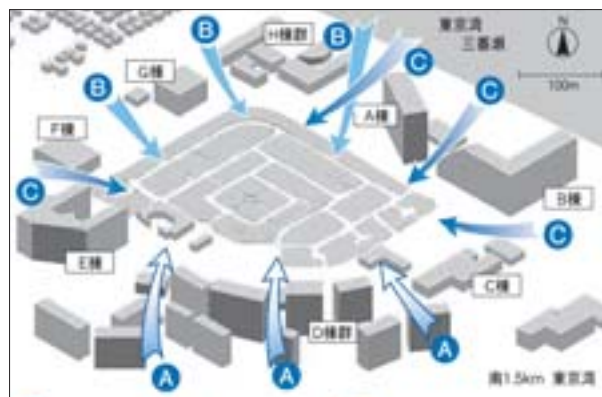
上／葉を落とした春の落葉樹による「日向ぼっこ効果」。地表面温度は気温より5度ほど高く、春のうららかなさを体感できます。下／葉を茂らせた夏の落葉樹による「緑陰効果」。樹木の日射遮蔽効果が明瞭で、日向との表面温度の差は約15度。

■マリナイスト21碧浜

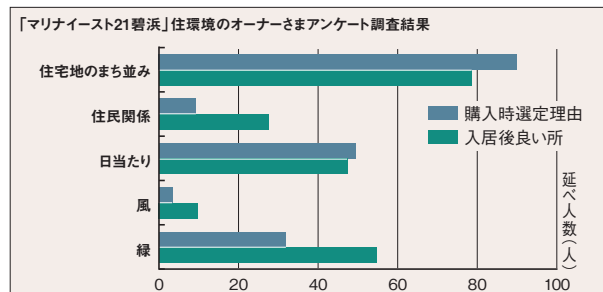
千葉県浦安市の平坦な海浜埋立地にあり、周辺を中層建築物に囲まれているため、海風やビル風の影響を受ける立地条件でした。そこで、外周区画では海からの強い風をやわらげるため、家と家の間に常緑樹を密に植栽し、また風の流を読んで街路に計画的な植栽を行い、微風の流れるまちづくりを実現。夏に日差しを遮り、冬には葉を落として住まいに陽だまりをつくる落葉樹もバランスよく植栽するなど、外構造園まで一貫して考慮することで、自然のエネルギーの恵みを受けられるようになり、冷暖房の使用を抑えるなどエネルギー消費やCO₂排出量の削減にもつながっています。開発から5年が経過した現在のオーナーさまへの住環境調査では、「緑」に対する評価が入居前より1.7倍も高くなっており、緑を計画的に植栽した住環境が入居後も高く評価されていることが分かりました。



マリナイスト21碧浜



A 夏の風 B 冬の季節風 C 低気圧・台風風の風





社会貢献 住まいづくりの企業として、科学、文化、福祉などさまざまな分野で社会に貢献します。

chapter.1

南極昭和基地

■昭和基地の建物の多くはミサワホーム

最低気温 -50°C 、風速60m/秒といった厳しい気候を設計条件とする南極の建物。極めて高レベルの断熱性・気密性・堅牢性などが求められます。ミサワホームでは1968年の第10居住棟以来、3階建の管理棟、2002年のNHKスタジオ棟など延べ約5,000㎡もの建物を受注。また、設営担当としてミサワホーム社員が越冬隊(第47次南極地域観測隊)に参加し、現地で活躍しています。厳しい環境で40年近くも続けてきた南極での建設は、ほかでは得

られない貴重な経験です。ミサワホームは、極寒の地で鍛えられた先端技術を日本の住まいづくりにも活かしています。



南極昭和基地の建物の多くはミサワホーム

chapter.2

バウハウスコレクション

■充実のコレクションを収蔵・展示

1919年に設立されたドイツの造形学校「バウハウス」。インテリア、グラフィックデザインなどの斬新な作品群は近代工業デザインの源流とされています。ミサワホームはその理念と創作活動に共鳴し、総合研究所内に展示スペース「ミサワバウハウスコレクション」を開設。作品約1,500点、蔵書約13,000点、資料約1,200点に及ぶコレクションを収蔵しています。毎回異なるテーマで企画展を開催するほか、美術館への出展などを通じて広く公開しています。



充実のコレクションを収蔵・展示

chapter.3

出版活動(住まいの文化誌)

■住まいと暮らしをテーマにした出版活動

住文化のシンクタンク、ミサワホーム総合研究所では、住まいと暮らしをテーマにした出版活動を積極的に行っています。数あるなかで特に評価が高いのが、著名文化人による書き下ろしエッセイと一流写真家による美しい写真を融合し、人と住まいの文化の歴史を探究した「住まいの文化誌」シリーズ。「日本人」、「天災人災」、「健康人間学」など巻を重ね、1992年には出版物として初めての建設大臣(当時)表彰を受賞しています。この他にも多彩な書籍を

発行。「住まいの安全を考える本」など、住まいづくり・暮らしづくりに役立つ内容が盛りだくさんです。



「住まいの文化誌」シリーズ

ミサワホームは2000年の介護保険制度導入以前から、高齢者問題に正面から取り組むべく、ケア付き住宅事業に進出。介護専用型高齢者住宅「マザアス南柏」、グループホームや品川区高齢者複合施設「ケアホーム西五反田」をはじめ、さまざまなタイプの介護・福祉施設の事業運営を手



介護専用型高齢者住宅「マザアス南柏」



高齢者複合施設「ケアホーム西五反田」「さくらハイツ西五反田」

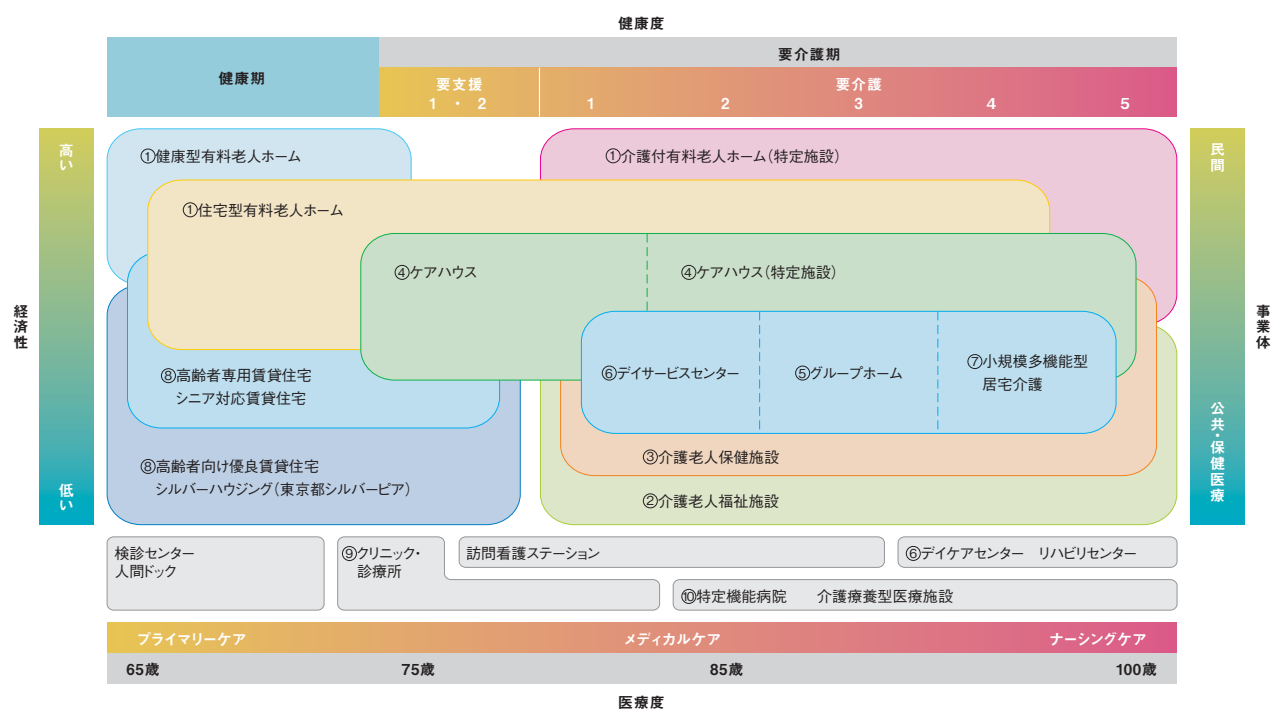
がけてきました。企画から建設・運営までトータルに対応できる経験を積み重ねています。

設計・施工 所轄行政庁へのヒアリング、各種調査などを行ったうえで市場を分析。土地オーナーさま、運営事業者さまのニーズと周辺ニーズにマッチした計画を立て、豊富な経験をいかして設計します。行政機関との協議・申請はもちろん、近隣との折衝、各種手続きなどまでトータルに行います。

入居募集 設計段階で実施したマーケティングをもとに、入居見込みの高齢者へのプレセールスから募集まで行います。数多くの介護・福祉に関わる入居募集・営業経験をいかして、トータルな戦略を立案、展開します。

豊富な直営実績によりノウハウをトータルに提供 介護・福祉事業は命を預かる仕事だけに、何よりも経験が重要になります。直営実績の豊富なミサワホームが蓄積してきたノウハウを、介護・福祉事業の成功と入居者への手厚いサービスのために提供します。

ミサワホームが取り組む10の介護・福祉事業



①有料老人ホーム
(健康型/住宅型/介護付)
介護や食事等のサービスが付いた高齢者向けの居住施設です。日常生活や療養上の世話・機能訓練を行います。

**⑥デイサービスセンター／
デイケアセンター**
食事・入浴などの介護サービスや機能訓練を日帰りで提供する施設です。デイケアセンターではリハビリテーションも受けられます。

②介護老人福祉施設
(特別養護老人ホーム)
常時介護が必要で、家庭での生活が困難な場合に入所し、入浴・食事等の介護、機能訓練などを行う施設です。

⑦小規模多機能型居宅介護
在宅での生活継続を支援する地域密着型施設。「通い」を中心に「泊まり」や「訪問」を組み合わせてサービスを提供します。

③介護老人保健施設
(老人保健施設)
リハビリ中心の医療ケアと介護が必要な場合に入所。病院と家庭の中間にあり、家庭復帰を容易にするための施設です。

**⑧高齢者向け優良賃貸住宅／
シルバーハウジング**
安全で安定した居住を高齢者に確保するため建設された優良な賃貸住宅。国・地方公共団体が助成を行います。

④ケアハウス
(軽費老人ホーム)
60歳以上で独立して生活するのに不安がある方が入所し、食事や入浴のサービスが利用できます。

⑨クリニック・診療所
老人ホームやグループホームなどと連携して、高齢者の健康を医療の面からトータルにサポートします。

⑤グループホーム
(認知症対応型共同生活介護)
5～9人を生活単位として認知症の高齢者が家庭的な環境の中でスタッフの援助を受けながら、共同生活を送ります。

**⑩特定機能病院・
介護療養型医療施設**
特定機能病院は、高度医療の大学病院。介護療養型医療施設は、長期療養が必要な要介護者にサービスを提供。

EARTH

地球にやさしいミサワホームをめざして

住まいという居住環境はもちろん、「EARTH」という地球環境まで視野に入れ、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努めます。

ミサワホームグループの環境への取り組み

ミサワホームでは1997年に住宅業界初のISO14001認証を取得し、同時に「環境宣言」を公表しました。以降、その宣言に基づき、さまざまな環境活動を展開してきましたが、2006年度からは2010年までの5ヵ年で達成すべき環境目的・目標を定めた環境活動計画を「SUSTAINABLE 2010」として策定。この計画に基づき、グループ一丸となって環境活動を展開しています。

環境宣言

【理念】

私たちミサワホームは、最も基本的な生活単位であり、人間形成の場である住まいを提供する企業として、住宅という居住環境はもちろん、街という生活環境、そして広くは地球環境までを視野に入れ、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努めてまいります。

【行動指針】

- 1 ミサワホームグループの一人ひとりが地球環境問題の重要性を認識し、環境保全における自らの役割を考えながら行動します。
- 2 商品開発にあたっては、研究、開発、購買、生産、流通、使用(生活)、廃棄等の各段階において環境への影響を考慮し、より良い住まいづくりを追求します。
- 3 工場生産部門では、環境関連法規を遵守し、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減に努めるとともに、自主管理基準を設け地域環境に配慮した生産活動を推進します。
- 4 現場生産部門では、周辺環境に配慮し、車輛運搬も含めた施工の合理化・効率化、建設廃棄物の低減を図り、より環境負荷の少ない施工システムを導入します。
- 5 環境保全に関連するイベント等への参画及び研究活動への協力・支援を行い、広く社会とのコミュニケーションを図ります。
- 6 社員全員への環境研修を徹底し、地球規模の視点に立った環境保全活動によって、社会に貢献できる人材を育成します。

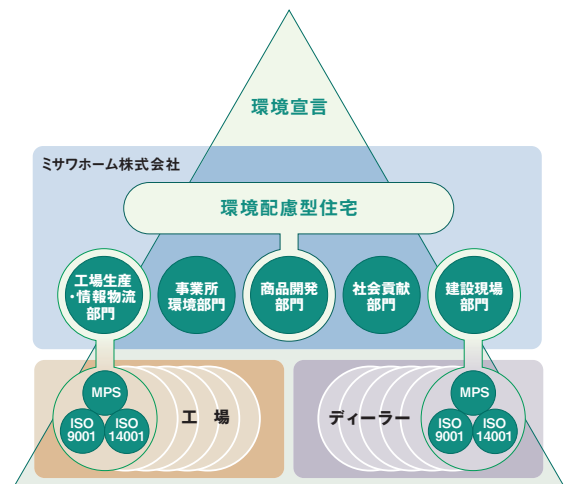
SUSTAINABLE 2010 2006年～2010年

新5ヵ年計画
2001年～2005年

中期3ヵ年計画
1998年～2000年

環境宣言
1997年策定

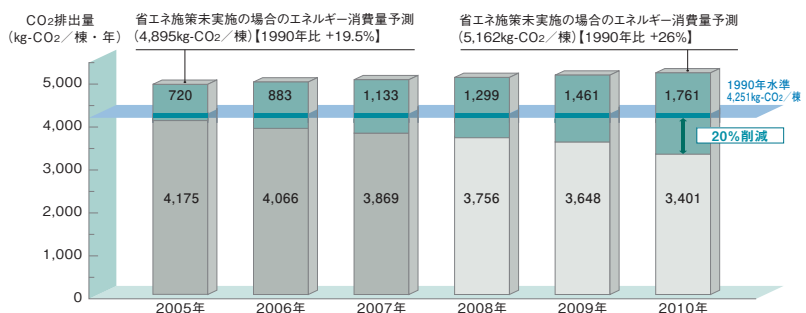
- 1 **CO₂削減**
住宅のライフサイクルにおける二酸化炭素排出量を1990年度比20%削減します。
- 2 **資源の有効活用**
地球環境における資源の有効活用を図るため、環境配慮素材の活用や建物の長寿命化・長期耐久化を促進します。
- 3 **ゼロ・エミッション**
2010年度までに工場・現場におけるゼロ・エミッション化を達成します。
- 4 **健康配慮**
室内環境汚染原因物質を削減し、健康に配慮した住宅を供給します。
- 5 **まちづくり**
人と自然が共生し、資産価値の高いまちづくりを促進します。



「SUSTAINABLE 2010」は、住まいのさらなる省エネ化を推進しています。

ミサワホームが供給する住宅の、居住段階・工場生産段階・輸送段階それぞれのエネルギー排出量の削減を行い、CO₂排出量の1990年度比20%削減を目指します。

CO₂削減シミュレーショングラフ



ミサワホームの環境会計

ミサワホームでは、環境保全対策に関わる費用とその効果を定量的に把握・分析するため、環境会計を2000年度より導入してきました。継続的かつ効果的な環境経営をめざし、ステークホルダー（一般消費者、取引先、投資家、NGOなど）の方々への情報開示を推進しています。

2007年度も昨年度に引き続き、環境省発表の「環境会計ガイドライン（2005年度版）」を参考に算出し、環境保全活動とそのコスト・効果をより明確にするため、当社独自の集計項目（経済的效果・CO₂削減効果）を加えています。

ミサワホームの環境保全コストおよび効果

項目	環境保全コスト(百万円)			効果	
	ミサワホーム	工場		経済効果 (百万円)	CO ₂ 削減効果 (t-CO ₂)
		木質※	セラミック		
	設計・開発	生産			
事務所活動	6	—	—	▲6	▲168
公害防止	—	157	38	—	—
省エネルギー・創エネルギー	469	4	2	1,044	14,281
省資源		198	—	▲718	▲2,183
新素材・リサイクル		82	12		7,731
長期耐久性		—	—		▲7
健康な居住環境	—	—	—	—	—
自然環境	11	6	1	—	—
廃棄物(工場・現場)	65	33	12	8	462
環境マネジメントシステム		35	5	—	—
合計	551	515	70	328	20,115

集計対象

会計対象期間
2007年4月～2008年3月

会計対象範囲
ミサワホーム株式会社(本社・本館・LACビル)
ミサワホーム工場16工場(木質工場14工場、セラミック工場2工場)

集計方法
環境省発行の環境会計ガイドラインの基準に沿って算出、当社独自の項目で集計

環境投資
環境保全に係る新規投資は、木質工場が76百万円で、セラミック工場が10百万円。
ミサワホーム株式会社における投資はありませんでした。

経済効果
実質的效果及び推定的効果を計上。
実質的效果…環境保全活動の結果得られた節約益、有価売却益を計上。
推定的効果…環境保全活動が寄与したとみなされる付加価値等、仮定的な計算に基づく効果を計上。

CO₂削減効果
環境目的・目標の実績をもとに環境活動評価プログラム(環境省)およびエコアクション21
(社団法人プレハブ建築協会)のCO₂排出量の算出方法により計上。

※木質部品工場(3工場)を含む

■2007年度集計結果について

2007年度ミサワホームグループの環境保全コストは、「ECO・微気候デザイン」を取り入れた商品、環境配慮部品の開発などで11億3,600万円となりました。環境保全効果については、2007年度に木質の壁パネルの性能向上に取り組み、木材の使用量が増えたことで、経済効果(みなし含む)は3.3億円となりました。また、2006年度より開始した「SUSTAINABLE 2010」に基づきCO₂削減に継続して取り組んだ結果、CO₂削減効果が20,115t-CO₂となり前年度18,202t-CO₂に対し11%向上しました。環境保全コスト当たりのCO₂削減指数は17.7t-CO₂/百万円となり、前年度比約5%アップと向上しています。

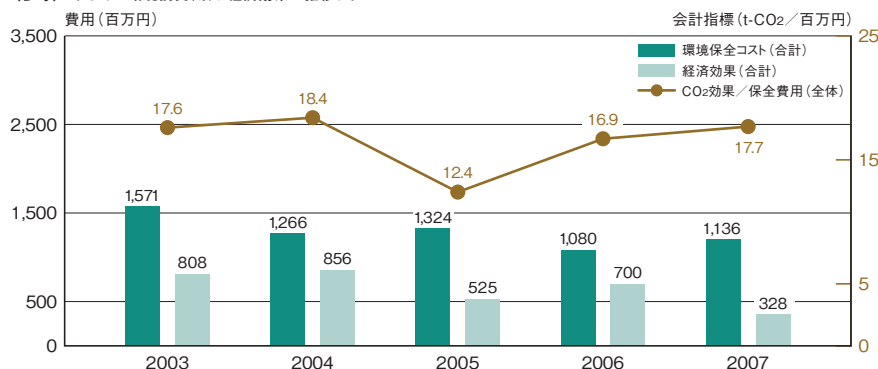
(参考) 環境省 環境会計ガイドラインによる集計

単位:百万円

環境省ガイドライン集計項目		ミサワホーム (本社・本部)	ミサワホーム工場			
			木質工場※		セラミック工場	
			投資額	費用額	投資額	費用額
(1) 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)	①公害防止コスト	0	1	157	0	38
	②地球環境保全コスト	0	0	4	10	2
	③資源循環コスト	6	74	313	0	24
(2) 生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷の抑制コスト(上・下流コスト)		0	0	0	0	0
(3) 管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)		40	0	35	0	5
(4) 研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)		480	0	0	0	0
(5) 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)		25	0	6	0	1
(6) 環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)		0	0	0	0	0
小 計		551	76	515	10	70
合 計			投資額	86	費用額	1,136

※木質部品工場(3工場)を含む

(参考) これまでの環境投資、及び経済効果の推移グラフ





ミサワホームの環境マネジメントシステム

環境方針

ミサワホーム株式会社は、ミサワホームグループ環境理念を踏まえ、商品開発及び事務所内活動を以下の方針に基づいて行います。

1 当社の活動、製品、サービスにかかわる環境影響を的確に把握し、この環境方針達成のため、
2 中期的な環境目的と年度環境目標を設定し、定期的な見直しを行うことで環境管理システムの質の継続的改善を図ります。

3 商品開発において、設計、開発、購買、生産、流通、使用(居住)、
4 廃棄物処理の各段階で継続的改善を行い、環境負荷低減・健康を考慮した住まいづくりを推進します。

5 住まいを通じて、気候風土や生物環境にも配慮して地域の特性を生かし、環境に配慮した美しいまちづくりを推進します。

6 事業所内活動において、資源の有効活用を図るため、使用エネルギーの効率的活用及びリサイクルの推進に努めます。

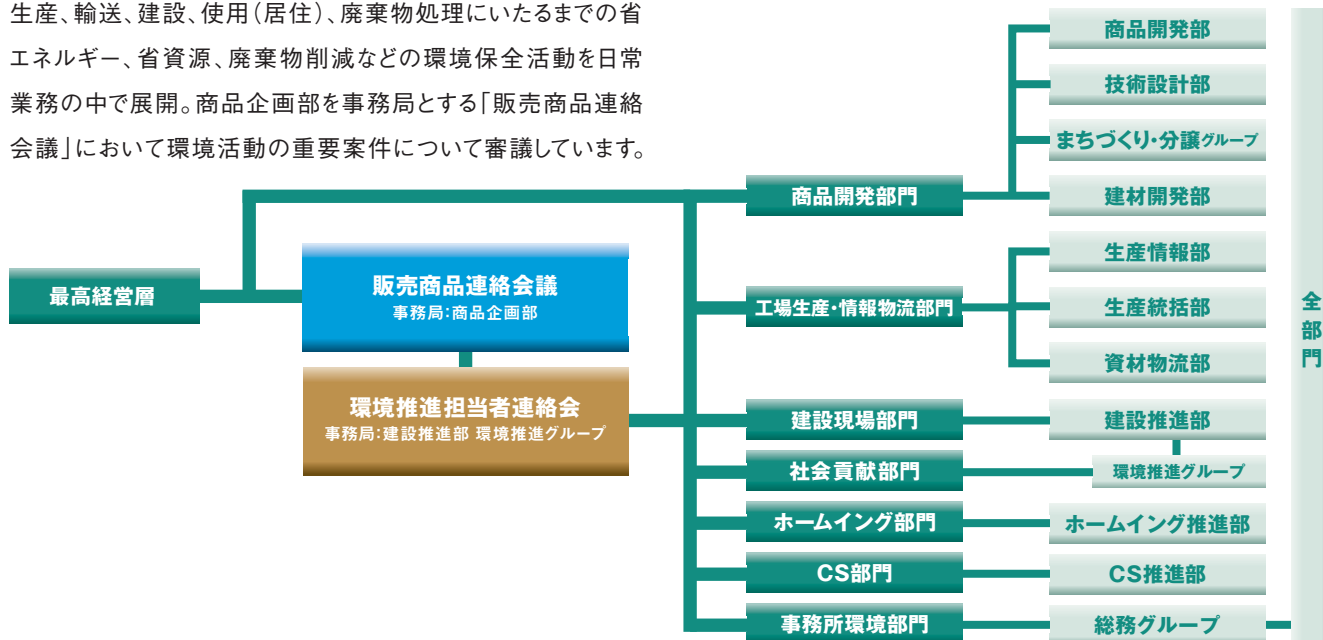
7 当社の活動、製品、サービスにかかわる環境関連の法律及び当社が同意する要求事項を厳守します。

環境保全、社会貢献などの協働活動の機会を通じて当社にかかわる方々との環境パートナーシップを強め、
環境方針や当社の環境推進活動をインターネット等を通じて公開することなどで、広く社会とのコミュニケーションを図ります。

全従業員に環境教育を行い、この環境方針を理解させるとともに地球規模の視野に立った環境保全活動に貢献できる人材を育成します。

■環境活動の推進体制

生産、輸送、建設、使用(居住)、廃棄物処理にいたるまでの省エネルギー、省資源、廃棄物削減などの環境保全活動を日常業務の中で展開。商品企画部を事務局とする「販売商品連絡会議」において環境活動の重要案件について審議しています。



■ISO14001 認証取得

1997年、(株)ミサワテクノ・ミサワホーム松本工場が業界初の環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001認証を取得以来、商品開発部門から製造工場、関連会社にいたるまでグループ全体で認証取得を行い、現在、ミサワホーム本社・本館、14工場及び関連企業2社が取得しています。また、内部・外部監査等を通して事業活動の継続的改善に努めています。

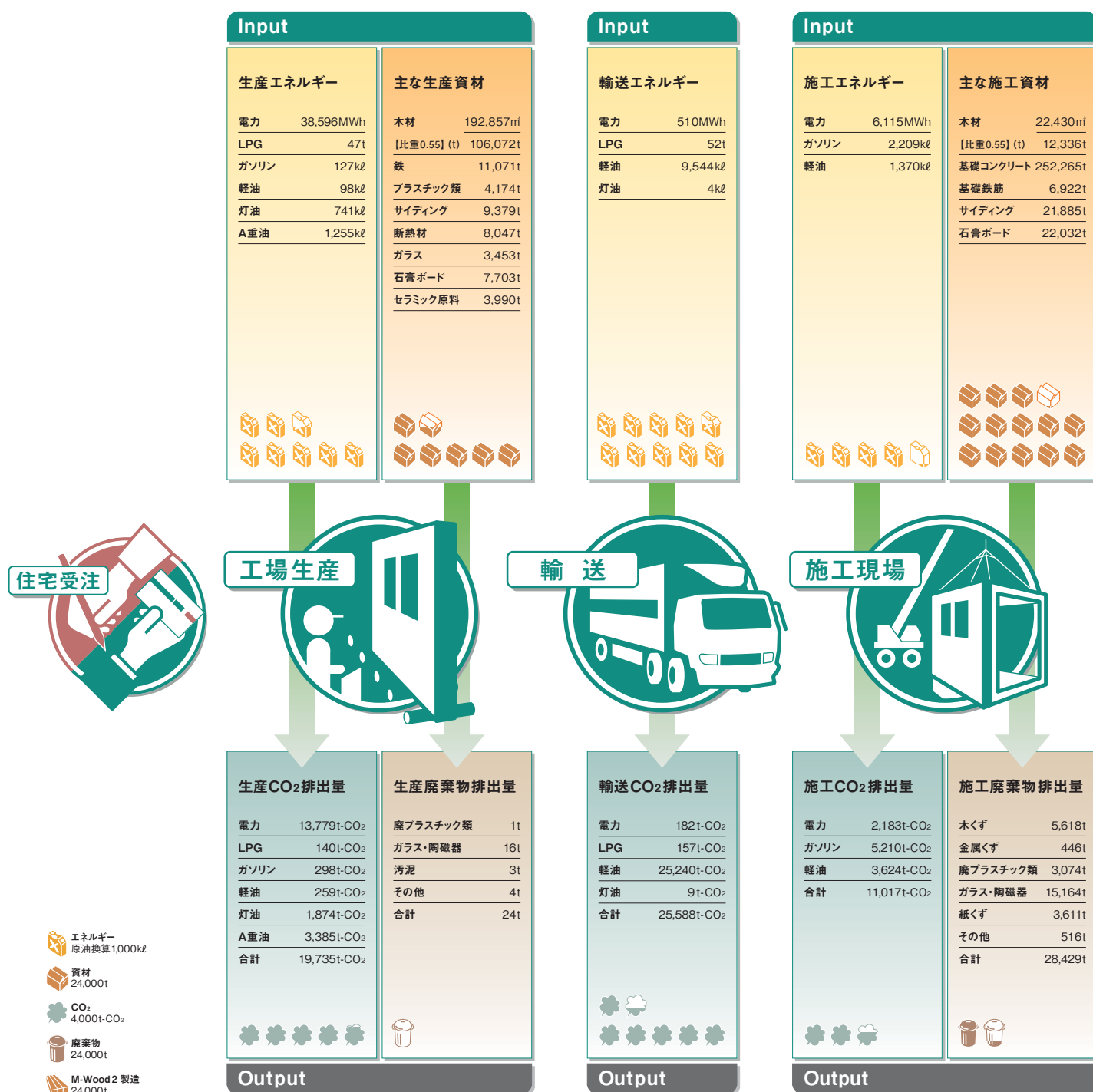
ISO14001認証取得工場・会社一覧

工場・会社……………取得年月日		
木質工場	松本工場……1997年6月13日	木質工場
	福岡工場……2000年7月1日	
	静岡工場……2000年8月1日	
	沼田工場……2000年12月1日	
	岩手工場……2001年1月1日	
	梓川工場……2001年2月1日	セラミック工場
	福井工場……2001年3月24日	
	山梨工場……2001年3月24日	
		本社・本館・LACビル
		関連会社

ミサワホームの環境への関わり

住宅の生産、輸送、施工、居住、解体には、多くの資材とエネルギーが投入され、廃棄物や温室効果ガス(CO₂)などが排出されています。ミサワホームでは、2007年度の販売実績に基づいて環境側面から環境影響を的確に把握し、効果的に環境負荷を低減させるため、ライフサイクル(生産・輸送・現場・居住段階)ごとの資材とエネルギーを集計しインプットとし、廃棄物や温室効果ガス(CO₂)などのアウトプットを「マテリアル&エネルギーフロー」としてまとめています。

2007年度 マテリアル&エネルギーフロー図

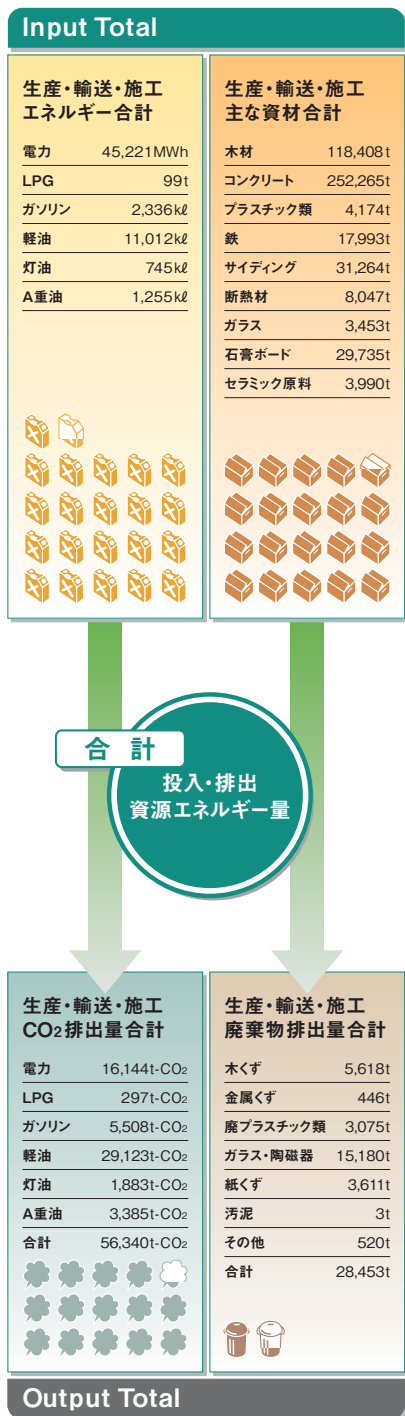


【算出根拠】

※CO₂排出量：各種エネルギーからCO₂への換算は社団法人プレハブ建築協会「エコアクション21」のCO₂排出量原単位による

■工場生産	資材、エネルギー、 廃棄物、CO ₂ 排出量	木質工場11、木質部品工場3 セラミック工場2 計16工場の合計
■輸送	エネルギー	車両(軽油)分(総走行距離×燃費)、輸送基地分の合計
■施工現場	電気	使用電力量(kWh/日・棟)×平均工期×施工棟数
	軽油	建機稼働時(ℓ/h)×燃費(ℓ/棟)×施工棟数 建機平均移動距離(km/棟)×燃費(km/ℓ)×施工棟数

■施工現場	ガソリン	平均職人投入数(人/棟)×平均移動距離(km/棟)×施工棟数
	廃棄物	自社調査による平均廃棄物排出量×施工棟数
■居住	CO ₂ 排出量	1世帯あたりのCO ₂ 排出量(約3,600kg-CO ₂)×施工棟数 [平成19年度版 環境・循環型社会白書「国勢調査」データに基づき推計]
■解体	廃棄物	「住宅・土地統計調査」「木造建築物解体工事の現場」(社団法人 全国解体工事業団体連合会)データに基づき推計
■処理・再生	M-Wood2製造	M-Wood2製造工場5工場の製造能力の合計

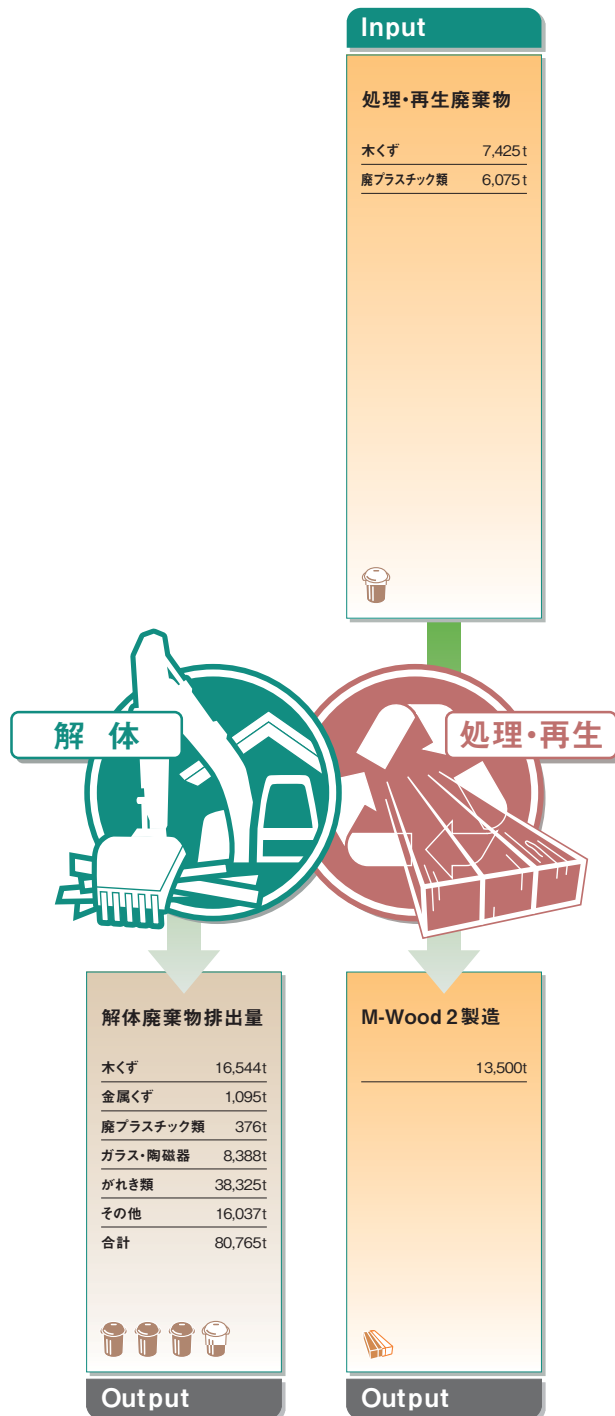
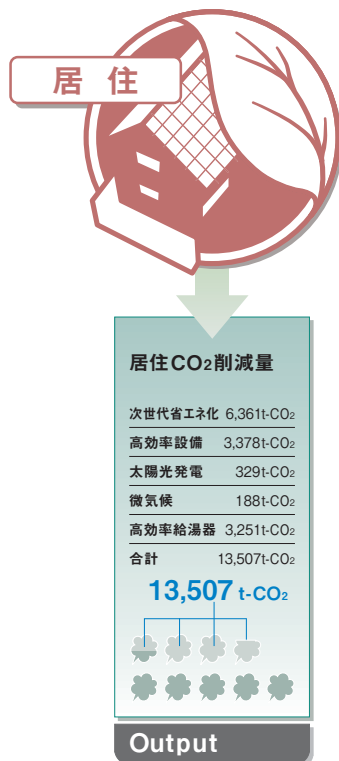


【年間居住段階CO₂削減】

13,507t-CO₂

ミサワホームが2007年度に販売した住まいにおいて、太陽光発電システム、24時間フロアセントラル熱交換換気システムの導入や、IHコンロ、エコキュート、エコジョーズなどの高効率・省エネルギー機器を利用した環境配慮設計により、年間居住段階CO₂、約34,666tのうち13,507tを削減できた計算となります。

参考：一般廃棄物排出量1,651kg(4人家族)
(1,075kg/世帯) (平成20年度版 環境・循環型社会白書、国勢調査) CO₂排出量5,197kg-CO₂(4人家族) (3,383kg-CO₂/世帯)(平成20年度版 環境・循環型社会白書、国勢調査)





2007年度環境活動の実績と自己評価

ミサワホームでは環境マネジメントシステムのもと、さまざまな環境活動を展開しています。

「SUSTAINABLE 2010」(2006～2010年)に基づき、環境目標達成に向けて環境目標を年度ごとに掲げています。

このページでは、ミサワホームの環境活動をカテゴリー別に2007年度の環境目標に対する実績と自己評価を掲載しています。

CO₂削減

環 境 目 的	項 目 別 目 標		目 標 と 実 績	自 己 評 価																		
	項 目	目 標																				
新規に供給する住宅の ライフサイクルに おけるCO ₂ 排出量を 2010年までに1990年 (4,251kg-CO ₂ /棟・年) 比20%削減する。	棟当たりCO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /棟・年)		<table><tr><th>年</th><th>目標</th><th>実績</th></tr><tr><td>2006年</td><td>4,123</td><td>4,066</td></tr><tr><td>2007年</td><td>3,850</td><td>3,869</td></tr><tr><td>2008年</td><td>3,756</td><td></td></tr><tr><td>2009年</td><td>3,648</td><td></td></tr><tr><td>2010年</td><td>3,401</td><td></td></tr></table>	年	目標	実績	2006年	4,123	4,066	2007年	3,850	3,869	2008年	3,756		2009年	3,648		2010年	3,401		2006年度より197(kg-CO₂/棟・年)削減しましたが、2007年度目標は未達成でした。今後も全社をあげてCO₂排出量の削減に取り組みます。
	年	目標	実績																			
	2006年	4,123	4,066																			
	2007年	3,850	3,869																			
	2008年	3,756																				
2009年	3,648																					
2010年	3,401																					
居住段階 エネルギー	次世代省エネ基準以上(品確法4等級相当以上)の住宅の普及率(%)	<table><tr><th>年</th><th>目標</th><th>実績</th></tr><tr><td>2006年</td><td>82</td><td>84</td></tr><tr><td>2007年</td><td>86</td><td>86</td></tr><tr><td>2008年</td><td>90</td><td></td></tr><tr><td>2009年</td><td>90</td><td></td></tr><tr><td>2010年</td><td>90</td><td></td></tr></table>	年	目標	実績	2006年	82	84	2007年	86	86	2008年	90		2009年	90		2010年	90		2006年度比で2ポイント改善し、2007年度目標も達成しました。今後も次世代省エネ基準以上(品確法4等級相当以上)の住宅の普及に努めます。	
	年	目標	実績																			
	2006年	82	84																			
	2007年	86	86																			
2008年	90																					
2009年	90																					
2010年	90																					
	微気候システム搭載住宅の普及率(%)	<table><tr><th>年</th><th>目標</th><th>実績</th></tr><tr><td>2006年</td><td>10</td><td>6</td></tr><tr><td>2007年</td><td>30</td><td>14</td></tr><tr><td>2008年</td><td>50</td><td></td></tr><tr><td>2009年</td><td>60</td><td></td></tr><tr><td>2010年</td><td>63</td><td></td></tr></table>	年	目標	実績	2006年	10	6	2007年	30	14	2008年	50		2009年	60		2010年	63		2006年度比で8ポイント改善しましたが、2007年度目標は達成できませんでした。今後も営業・設計部門が連携して微気候商品の普及率を向上させ、居住段階でのCO₂排出量を削減します。	
年	目標	実績																				
2006年	10	6																				
2007年	30	14																				
2008年	50																					
2009年	60																					
2010年	63																					
	高効率給湯器の普及率(%)	<table><tr><th>年</th><th>目標</th><th>実績</th></tr><tr><td>2006年</td><td>31</td><td>31</td></tr><tr><td>2007年</td><td>40</td><td>32.4</td></tr><tr><td>2008年</td><td>49</td><td></td></tr><tr><td>2009年</td><td>55</td><td></td></tr><tr><td>2010年</td><td>60</td><td></td></tr></table>	年	目標	実績	2006年	31	31	2007年	40	32.4	2008年	49		2009年	55		2010年	60		2006年度比で1.4ポイント改善しましたが、2007年度目標は未達成でした。今後も高効率給湯器の普及に努めていきます。	
年	目標	実績																				
2006年	31	31																				
2007年	40	32.4																				
2008年	49																					
2009年	55																					
2010年	60																					
	高効率設備機器の採用によるCO ₂ 排出量の削減(kg-CO ₂ /棟)	<table><tr><th>年</th><th>目標</th><th>実績</th></tr><tr><td>2006年</td><td>210</td><td>284</td></tr><tr><td>2007年</td><td>259</td><td>330</td></tr><tr><td>2008年</td><td>293</td><td></td></tr><tr><td>2009年</td><td>331</td><td></td></tr><tr><td>2010年</td><td>383</td><td></td></tr></table>	年	目標	実績	2006年	210	284	2007年	259	330	2008年	293		2009年	331		2010年	383		2006年度比46(kg-CO₂/棟・年)削減し、2007年度目標も達成しました。高効率機器の採用の標準化に取り組み、CO₂の削減に努めていきます。	
年	目標	実績																				
2006年	210	284																				
2007年	259	330																				
2008年	293																					
2009年	331																					
2010年	383																					

自己評価基準 環境行動計画における目標を気象の天気表示にして3段階で表現しました。

☀️ 2006年度実績よりも改善し、2007年度目標も達成。 ☁️ 2006年度実績よりも改善しましたが、2007年度目標は未達。 🌧️ 2006年度実績よりも悪化し、2007年度目標も未達。

CO2削減／資源有効活用

環境目的	項目別目標		目標と実績	自己評価																														
	項目	目標																																
新規に供給する住宅の ライフサイクルに おけるCO ₂ 排出量を 2010年までに1990年 (4,251kg-CO ₂ /棟・年) 比20%削減する。	工場生産 エネルギー	木質・セラミック 棟当たり排出量 (kg-CO ₂ /棟)	<table><thead><tr><th>年</th><th>目標</th><th>木質実績</th><th>セラミック実績</th><th>木質部品実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>2006年</td><td>1,036</td><td>1,014</td><td>1,032</td><td>1,016</td></tr><tr><td>2007年</td><td>1,032</td><td>1,023</td><td>1,016</td><td>1,012</td></tr><tr><td>2008年</td><td>1,016</td><td>1,012</td><td>1,008</td><td>1,008</td></tr><tr><td>2009年</td><td>1,012</td><td>1,008</td><td>1,008</td><td>1,008</td></tr><tr><td>2010年</td><td>1,008</td><td>1,008</td><td>1,008</td><td>1,008</td></tr></tbody></table>	年	目標	木質実績	セラミック実績	木質部品実績	2006年	1,036	1,014	1,032	1,016	2007年	1,032	1,023	1,016	1,012	2008年	1,016	1,012	1,008	1,008	2009年	1,012	1,008	1,008	1,008	2010年	1,008	1,008	1,008	1,008	木質 セラミック 木質部品 木質・セラミック工場において、2006年度より棟当たり排出量が増加しましたが、木質の2007年目標は達成。部品においては、前年と同様値で2007年度の目標達成。今後も、工場生産段階における電力、燃料消費などの改善を図ります。
		年	目標	木質実績	セラミック実績	木質部品実績																												
	2006年	1,036	1,014	1,032	1,016																													
2007年	1,032	1,023	1,016	1,012																														
2008年	1,016	1,012	1,008	1,008																														
2009年	1,012	1,008	1,008	1,008																														
2010年	1,008	1,008	1,008	1,008																														
木質部品 当たり排出量 (kg-CO ₂ / BCL枚) ※1部品当たり バーコード枚数	<table><thead><tr><th>年</th><th>目標</th><th>木質実績</th><th>セラミック実績</th><th>木質部品実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>2006年</td><td>4.57</td><td>4.34</td><td>4.55</td><td>4.53</td></tr><tr><td>2007年</td><td>4.55</td><td>4.34</td><td>4.53</td><td>4.51</td></tr><tr><td>2008年</td><td>4.53</td><td>4.51</td><td>4.49</td><td>4.49</td></tr><tr><td>2009年</td><td>4.51</td><td>4.49</td><td>4.49</td><td>4.49</td></tr><tr><td>2010年</td><td>4.49</td><td>4.49</td><td>4.49</td><td>4.49</td></tr></tbody></table>	年	目標	木質実績	セラミック実績	木質部品実績	2006年	4.57	4.34	4.55	4.53	2007年	4.55	4.34	4.53	4.51	2008年	4.53	4.51	4.49	4.49	2009年	4.51	4.49	4.49	4.49	2010年	4.49	4.49	4.49	4.49			
年	目標	木質実績	セラミック実績	木質部品実績																														
2006年	4.57	4.34	4.55	4.53																														
2007年	4.55	4.34	4.53	4.51																														
2008年	4.53	4.51	4.49	4.49																														
2009年	4.51	4.49	4.49	4.49																														
2010年	4.49	4.49	4.49	4.49																														
輸送 エネルギー	棟当たり 排出量 (%)	<table><thead><tr><th>年</th><th>目標</th><th>木質系住宅実績</th><th>セラミック系住宅実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>2006年</td><td>99</td><td>93.8</td><td>92.5</td></tr><tr><td>2007年</td><td>92.5</td><td>96.8</td><td>92</td></tr><tr><td>2008年</td><td>92</td><td>91.5</td><td>90.5</td></tr><tr><td>2009年</td><td>91</td><td>90.5</td><td>90.5</td></tr><tr><td>2010年</td><td>90</td><td>90.5</td><td>90.5</td></tr></tbody></table>	年	目標	木質系住宅実績	セラミック系住宅実績	2006年	99	93.8	92.5	2007年	92.5	96.8	92	2008年	92	91.5	90.5	2009年	91	90.5	90.5	2010年	90	90.5	90.5	木質系住宅 セラミック系住宅 セラミック系住宅においては、2006年度より削減し、2007年度目標を達成しましたが、木質系住宅については、納品地区の変更により輸送距離が延びました。アイドリングSTOPの徹底や積込基準の見直し等により、車輛台数の削減に努めています。							
		年	目標	木質系住宅実績	セラミック系住宅実績																													
2006年	99	93.8	92.5																															
2007年	92.5	96.8	92																															
2008年	92	91.5	90.5																															
2009年	91	90.5	90.5																															
2010年	90	90.5	90.5																															
事務所 エネルギー	事務所活動 に伴うCO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	<table><thead><tr><th>年</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>2006年</td><td>1,339</td><td>1,289</td></tr><tr><td>2007年</td><td>1,443</td><td>1,429</td></tr><tr><td>2008年</td><td>1,429</td><td>1,414</td></tr><tr><td>2009年</td><td>1,414</td><td>1,400</td></tr><tr><td>2010年</td><td>1,400</td><td>1,400</td></tr></tbody></table>	年	目標	実績	2006年	1,339	1,289	2007年	1,443	1,429	2008年	1,429	1,414	2009年	1,414	1,400	2010年	1,400	1,400	会社統合によるサイトの増加に伴い、ベンチマークの見直しを行いました。今後も事務所活動における省エネ活動に努めていきます。													
年	目標	実績																																
2006年	1,339	1,289																																
2007年	1,443	1,429																																
2008年	1,429	1,414																																
2009年	1,414	1,400																																
2010年	1,400	1,400																																
環境配慮素材の 活用や、建物の 長寿命化・長期耐久化 を促進する。	リサイクル 素材の活用	M-Wood1・2 使用量 (%)	<table><thead><tr><th>年</th><th>目標</th><th>M-Wood1実績</th><th>M-Wood2実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>2006年</td><td>100</td><td>90.5</td><td>94.1</td></tr><tr><td>2007年</td><td>100</td><td>90</td><td>125</td></tr><tr><td>2008年</td><td>100</td><td>150</td><td>169</td></tr><tr><td>2009年</td><td>100</td><td>169</td><td>187</td></tr><tr><td>2010年</td><td>100</td><td>187</td><td>187</td></tr></tbody></table>	年	目標	M-Wood1実績	M-Wood2実績	2006年	100	90.5	94.1	2007年	100	90	125	2008年	100	150	169	2009年	100	169	187	2010年	100	187	187	M-Wood1においては2006年度横ばいで推移、M-Wood2においては、海外需要等により2006年度より延びていますが、2007年度目標は未達成。						
	年	目標	M-Wood1実績	M-Wood2実績																														
2006年	100	90.5	94.1																															
2007年	100	90	125																															
2008年	100	150	169																															
2009年	100	169	187																															
2010年	100	187	187																															
グリーン購入 量の推進	事務用品の グリーン購入 比率 (%)	<table><thead><tr><th>年</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>2006年</td><td>60</td><td>54</td></tr><tr><td>2007年</td><td>60</td><td>56</td></tr><tr><td>2008年</td><td>65</td><td>70</td></tr><tr><td>2009年</td><td>70</td><td>75</td></tr><tr><td>2010年</td><td>75</td><td>75</td></tr></tbody></table>	年	目標	実績	2006年	60	54	2007年	60	56	2008年	65	70	2009年	70	75	2010年	75	75	2007年度は、2006年度より2ポイント向上しているが、目標値には、未達成。今後も継続して事務用品におけるグリーン購入の推進に努めます。													
年	目標	実績																																
2006年	60	54																																
2007年	60	56																																
2008年	65	70																																
2009年	70	75																																
2010年	75	75																																

2007年度環境活動の目標と実績

自己評価基準 環境行動計画における目標を気象の天気表示にして3段階で表現しました。

☀️ | 2006年度実績よりも改善し、2007年度目標も達成。 ☁️ | 2006年度実績よりも改善しましたが、2007年度目標は未達。 🌧️ | 2006年度実績よりも悪化し、2007年度目標も未達。

ゼロ・エミッション/健康配慮/企業活動

環境目的	項目別目標		目標と実績	自己評価
	項目	目標		
2010年度までに 工場・現場における ゼロ・エミッション化 を達成する。	工場生産 廃棄物削減	工場生産から 排出される 廃棄物の リサイクル率(%)		各工場において改善を行い、2007年度目標値を達成しました。今後よりサイクルの内容の改善を図るよう努力します。
	現場廃棄物 削減	新築現場から 発生する 廃棄物排出量 (%)		現場におけるゼロエミッションの取り組み等により、木質系、セラミック系共2006年度より排出量を削減し、2007年度の目標値も達成しました。今後もゼロ・エミッションの水平展開を図ります。
	事務所活動 における 廃棄物削減	事務所系 廃棄物 排出量(t)		会社統合により2007年度をベンチマークとし計画値の見直しを行いました。社内EMS活動を推進し、より削減するよう努力します。
健康に配慮した 住宅を供給する。	有害化学 物質対策	PRTR法に 基づき指定 化学物質の 管理を徹底	ミサワホーム支給部品における化学物質ガイドラインの作成着手 環境関連法規制や各種指針などを参考に、社会状況及び自社の独自の視点で対象物質を選定し、管理の徹底を図ります。	
人と自然が共生し、 資産価値の高い まちづくりを促進する。	環境共生	環境に配慮 したまちづくり の推進	2007年度環境に配慮したまちづくりのディーラー設計支援:189棟(19物件) 今後においては、まちづくりガイドラインの作成に取り組み水平展開を行い、環境に配慮したまちづくりの拡充を図ります。	



地球環境と共に

ミサワホームグループは、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努力します。

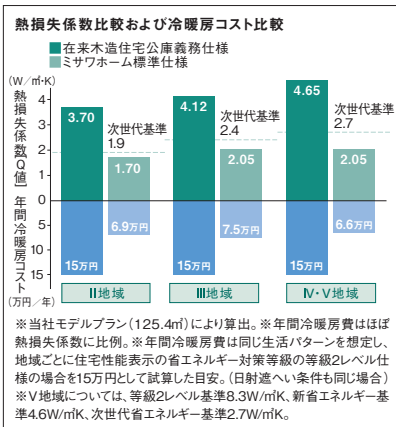
CO2削減 ミサワホームの企業活動によるCO2排出量を、2010年までに1990年比20%削減することをめざしています。

chapter.1

省エネルギー住宅によるCO2削減

■次世代省エネルギーをしのぐ室内環境

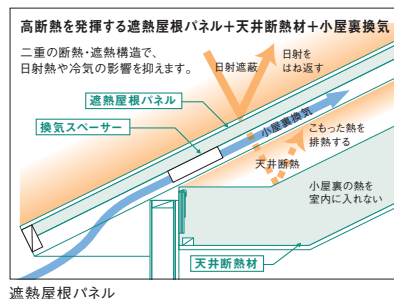
2005年発効の京都議定書では、2012年までに温室効果ガスを1990年比で6%削減することが定められています。ミサワホームでは、温室効果ガスの大部分を占めるといわれるCO2排出量を、2010年までに20%削減する目標を定め、さまざまな活動を行ってきました。その中核となる次世代省エネルギー基準は、2004年に戸建住宅標準化。2007



年度の販売実績のうち、86%が次世代省エネ基準の住まいでした。今後さらに、全棟標準化の実現に努めていきます。

■すぐれた断熱性能で省エネルギー

木質パネル接着工法により、通常仕様でも高断熱・高气密のミサワホームの住まいですが、「遮熱屋根パネル」や「200mm厚天井断熱材」、「高断熱木質パネル」などの利用で、さらなる高断熱設計も実現できます。邸別のエネルギー消費シミュレーションソフトを使用して、住まいの省エネルギー性能を体験することも可能です。



chapter.2

創エネルギー住宅によるCO2削減

■ミサワホームのゼロ・エネルギー住宅

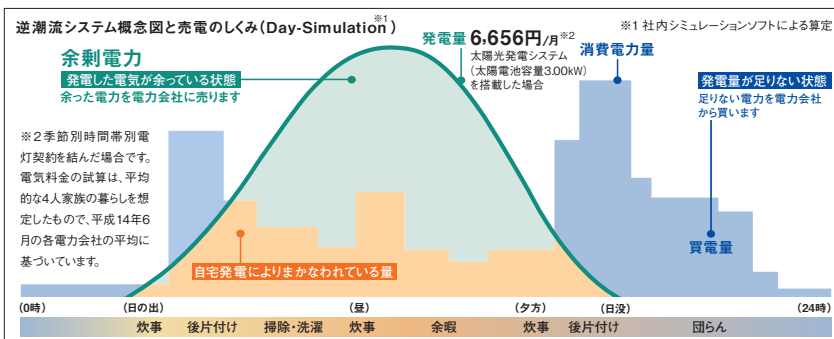
ミサワホームでは、高断熱・高气密設計による省エネルギー、太陽光発電システムによる創エネルギー、さらにオール電化等による高効率化を融合することで、1998年、生活エネルギーを100%自給できる世界初のゼロ・エネルギー住宅「HYBRID-Z」や「ミサワホームZ」を実現。現在は「VikiCourt」「SMARTSTYLE」などを中心に、太陽光発電システムを搭載した住まいのさらなる普及に努めています。

■オール電化でさらにエコロジー

ミサワホームでは、空調、料理、給湯にいたるまで、すべての機器を電化した「オール電化」のライフスタイルをご提案しています。太陽光発電を最大限に活用し、クリーンな電気を一元的に供給。4人家族が快適な生活を平均的に送った場合の必要エネルギーをすべてまかなうことができます。また、基本的に火を使わず暮らせるので、燃焼ガスの発生がなく、お年寄りやお子さまにも安心です。



CENTURY Viki Court





chapter.3

次世代ゼロ・エネルギー住宅

徹底した断熱・気密対策を核とした「省エネルギー技術」。太陽の光や空気の熱といった自然の恵みを活かす「創エネルギー技術」。ミサワホームでは、その二つを高い次元で融合させた「次世代ゼロ・エネルギー住宅」の開発に取り組んでいます。年間の発電量が消費量を上回るだけの従来の

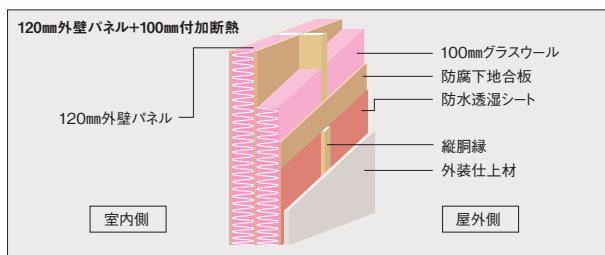


「次世代ゼロ・エネルギー住宅」試行棟(北海道・旭川)

ゼロ・エネルギー住宅に対し、建設時に必要なエネルギーも含め生活段階で回収するライフサイクルエネルギー収支ゼロを目指しています。

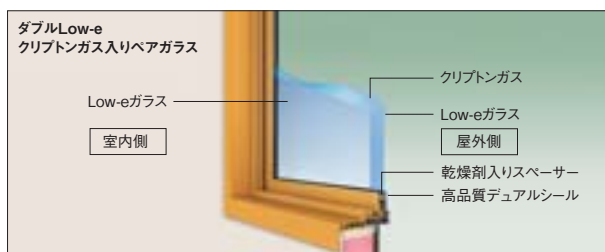
■付加断熱システム

断熱・気密性にすぐれたミサワホームの寒冷地用120mm厚外壁パネルに、さらに100mmの断熱材を付加することにより、外壁からの熱損失を50%削減しました。



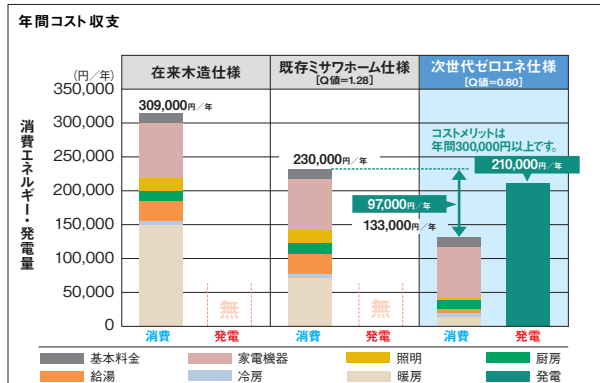
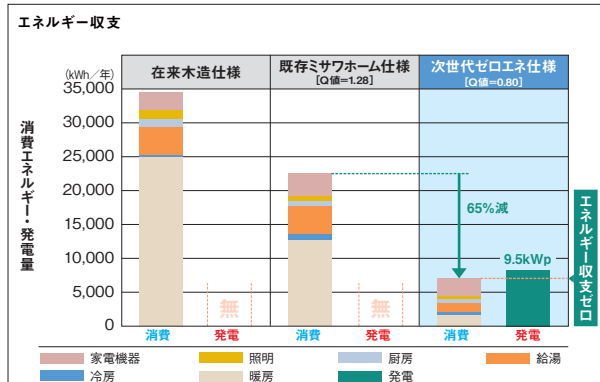
■高断熱ガラス

ペアガラスの室内側ガラスに加え、屋内側ガラスにも熱反射効果の高いLow-e膜をコーティング。従来のアルゴンガスより断熱性にすぐれたクリプトンガスをガラスの間に封入したペアガラスの採用などで、窓からの熱損失を27%削減。

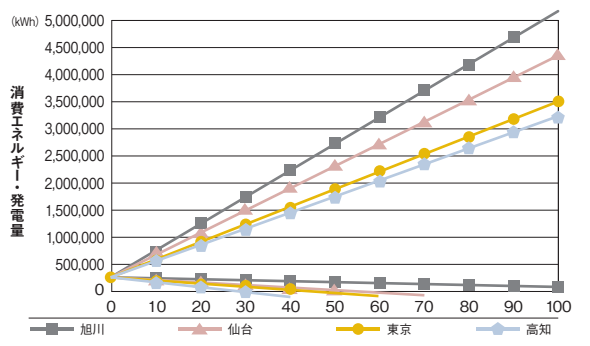


■ライフサイクルエネルギー・ゼロ

「ライフサイクルエネルギー」とは、建物を建設する時の原材料の調達から、工場生産、輸送、現場施工、そして完成後使用(居住)し、最後は解体廃棄するまでの一連のサイクルの中で消費される全てのエネルギーを意味します。「次世代ゼロ・エネルギー住宅」は太陽光による発電量が消費量を上回るため、一定の期間で建設時も含めたライフサイクルエネルギー収支もゼロに。それ以降はいわばCO₂を吸収する住宅となり、大きなコストメリットも生まれます。



ライフサイクルエネルギー収支



chapter.4 「ECO・微気候デザイン」による省エネルギー

■「ECO・微気候デザイン」とは

「家のつくりようは夏を旨とすべし」と吉田兼好が「徒然草」に書いたように、日本の伝統住宅には高温多湿の夏をしのぎやすくする工夫が随所にありました。自然の快適さをいかして心地よく暮らす“先人の知恵”を、現代の“先進の技術・デザイン”で再現するのが「ECO・微気候デザイン」です。エアコンなどの使用を抑え、省エネルギーで環境にもやさしく暮らせます。「微気候」とは、住まいとその周辺の局地的な気候のこと。地域の気候特性や、敷地における風の通り道、日照条件、植物分布などを把握し、年間を通して快適な住まいをデザインします。



「ECO・微気候デザイン」を採用した「HYBRID BLANC」

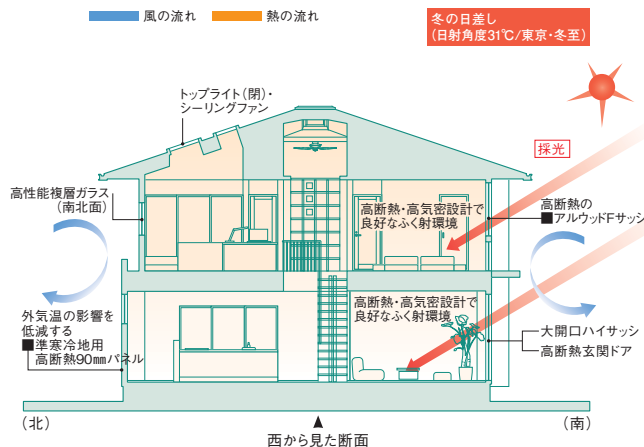
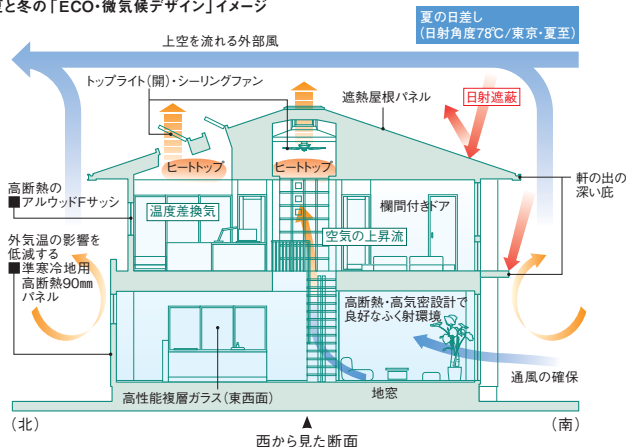
■夏を涼しく暮らす「ECO・微気候デザイン」

夏の日差しは、「深い庇」が効果的にカット。高断熱の「遮熱屋根パネル」などが外気温の影響を緩和します。地域の風向きに合わせて開口部を設計し、風通しのいい住まいをデザイン。「地窓」から涼風を採り入れ、上方の「トップライト」から室内にこもる熱気を効果的に排出します。

■冬を暖かく暮らす「ECO・微気候デザイン」

冬を暖かく暮らすには、住まいの断熱性能を高めてふく射環境を良くし、すき間風を防ぐことが大切です。そこで、大開口のハイサッシから日差しをたっぷり採り入れて室内を暖め、独自の高断熱・高気密設計や高性能複層ガラスにより、暖かい空気の熱を室内にしっかりとキープ。北海道で 사용되는「高断熱玄関ドア」もご提案しています。

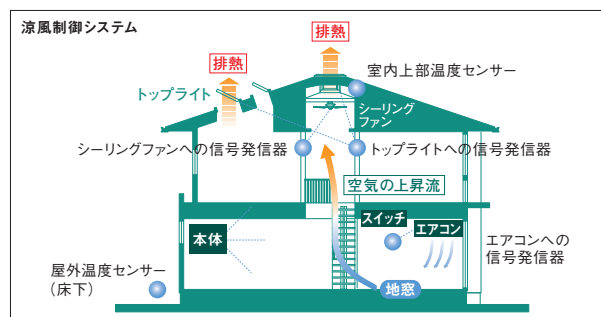
夏と冬の「ECO・微気候デザイン」イメージ



chapter.5 「涼風制御システム」による省エネルギー

■無風時にも風が流れる「涼風制御システム」

夏の日差しをカットし、冬は招き入れる「深い庇」などの“先人の知恵”と、高断熱・高遮熱タイプを使い分けできる「高性能複層ガラス」などの“先進の技術・デザイン”の両方を融合し、さらに「涼風制御システム」により天井付近にこもる熱気を抜きながら自然の風を取り込み、エアコンを補助的に運転させることで、運転時間を低減させます。通風の期待できない都市部などで、とくに効果的なシステムです。



室温・外気温を感知し、トップライトの開閉やシーリングファン、エアコンを自動運転します。



資源の有効活用 地球資源を有効活用する新素材の発明や、環境に配慮した木材使用を推進しています。

chapter.1

環境配慮素材「ニューセラミック」

資源の枯渇を考えたときに、大切になるのは代替資源を活かした製品開発です。まだ余裕のある身近な材料を有効に活かし、すぐれた住宅素材を生み出していくことが必要です。ミサワホームは、いち早く環境と住宅の共生を考えて、自然界に豊富に残されている珪石と石灰石に着目。1972年にまったく新しい住宅素材「ニューセラミック」を開発しました。

ニューセラミックは堅牢さと優れた耐火性・耐久性・断熱性・遮音性を実現し、外壁材としてあらゆる面で高性能を備えた多機能素材です。珪石と石灰石の粉末はスラリー（泥状液）にし、ミキサーから型枠に流し込んで一体成型。表面を整えるときに出るスラリーも廃棄せずに、再びミキサーから型枠に流し込むため原料をムダなく活かすことができます。



chapter.2

高機能リサイクル素材「M-Wood」

1970年代に二度あったオイルショックは、世界中に原料不足や資源高騰を招き、これを機に省エネルギーの技術促進やエネルギー活用が模索されることとなりました。ミサワホームでは、輸入した木材のロス部分すべてを活用し、リサイクルして、住宅の内装仕上げ材として使用可能な新素材「M-Wood」を開発。「M-Wood」は、木質工場で発生する木のロス部分を微粉化し、樹脂と合わせた材料を熱加工して成型し、見た目も感触も天然木そのもの、耐久性にすぐれ

た美しいインテリアを実現しました。2005年には、廃棄物処理法の広域認定制度に基づく環境大臣認定を取得。二次加工メーカーで発生する端材を、自社の物流便を利用し回収して効率的なリサイクルを実現。今後さらなる完全循環システムを構築し、「M-Wood」の廃棄物ゼロ化を目指します。



M-Woodでコーディネートしたインテリア

chapter.3

100%リサイクル素材「M-Wood2」

木材以外の素材のリサイクルもめざして、100%リサイクル材「M-Wood2」を開発しました。工場や施工現場から出る木質系廃材と、容器包装材などの廃プラスチックを再利用しています。日光や風雨にさらされても劣化しにくく、メンテナンス性にすぐれ長期間使用できます。このような特長をもつ「M-Wood2」はデッキ、パーゴラなど、住宅のエクステリア部材としてだけでなく、中部国際空港や2005年の愛知万博のデッキなど、環境を重視する大型プロジェクトにも採用されています。また、使用後回収して原料として再利用でき

る多回リサイクル性を持っており、原理的には10回以上のリサイクルも可能で、環境負荷の低減に寄与できる素材として（財）日本建築センターが行う「再生有機系建材認定事業」の第1号を取得しました。環境保全に役立つ商品としての「エコマーク認定」や「木材・プラスチック再生複合材」として新JISマークも取得しています。



中部国際空港の軌道デッキ 写真提供:中部国際空港株式会社

chapter.4

PEFC認証のフィンランド工場

ミサワホーム・フィンランド工場が、世界最大の森林認証制度「PEFC森林認証プログラム」を取得しました。「PEFC」には、森林管理に対する認証と、加工・流通の認証の2種類があり、今回は、加工・流通の認証「CoC認証」を取得しました。「CoC認証」とは、森林材を利用した製品に、認証された森林の伐採材が一定基準以上使用されていることを証明する認証制度です。



PEFC-CoC認証書



ミサワホーム・フィンランド工場

※PEFC:Program for the Endorsement of Forest Certification schemes

chapter.5

「エコレールマーク」の企業認定

ミサワホームでは、物流の効率化を図るべく、『モーダルシフト』という言葉が使われ始める前から鉄道貨物やフェリーを利用していました。現在、北は北海道から南は九州までの500km以上の長距離輸送に鉄道貨物やフェリーを利用し、輸送ロスのない効率的な物流を実現させています。500km



以上の輸送におけるモーダルシフト率は41%です。この結果CO₂排出量の少ない鉄道輸送に積極的に取り組む企業として、2006年「エコレールマーク」の認定も受けています。



資材の長距離輸送にはJRコンテナを活用

chapter.6

地球環境に配慮した木材生産

■環境先進国フィンランドでの調達・生産

フィンランドは、森林伐採量を厳しく制限している環境先進国。ミサワホーム・フィンランド工場では、伐採した木をムダなく活用するシステムを構築しています。丸太の製材過程で発生する樹皮は隣接する火力発電所の燃料に、チップはパルプの原料に利用するなど100%利用し、森林資源を有効活用。反り、ひび割れなどの経年変化を抑えるための木材含水率15%以下の管理は、化石燃料を使用しない人工乾燥です。



化石燃料を使わない人工乾燥

■中国で環境負荷の少ない積層合板を生産

中国では進行する砂漠化抑止のため、平原緑化政策を推進。中国のミサワホーム工場では、緑化政策によって植林された木を使用しています。世界三大植林のひとつにも数えられる、環境負荷の少ない樹種です。この工場はLVL(単板積層材)の生産拠点として、JAS認定を取得しています。



中国・臨沂(リンイ)のミサワホーム工場



製造工程



ゼロ・エミッション 2007年度、ミサワホーム全16工場にてゼロ・エミッションを達成しました。

chapter.1

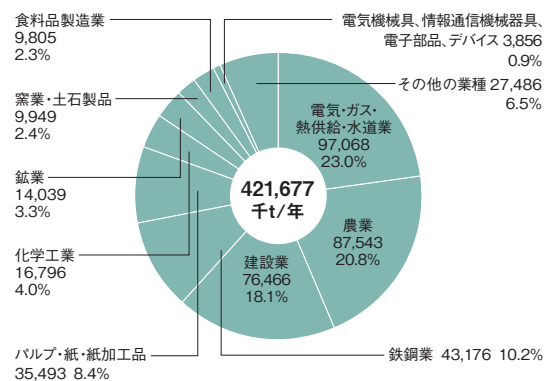
工場におけるゼロ・エミッション

■工場のゼロ・エミッション[※]達成

環境省がまとめた「産業廃棄物の業種別排出量(2005年)」によると、年間総排出量421,677千tで前年比約1.1%増加しています。このうち建設業は76,466千tで前年より3.3%減少したものの全体の18.1%と、業種別で3番目に排出量の多い産業です。ミサワホームでは環境5ヵ年活動計画「SUSTAINABLE 2010」に基づいて、生産工場や施工現場から排出される産業廃棄物の削減に取り組んでいます。2007年には全国16ヵ所あるすべての工場において生産工程から排出される廃棄物の埋立て及び単純焼却を行わず、リサイクル率100%としたゼロ・エミッションを達成。また、工場において社内基準(工場生産副産物適正処理ガイド)を作成し、定期評価を実施しています。全国工場の担当者を対象とした廃棄物処理リスク低減対策勉強会などを行い、さらなる改善に取り組んでいきます。

※廃棄物の埋立て及び単純焼却を行わず、リサイクル率100%とすること。

産業廃棄物の業種別排出量(2005年)



ミサワホーム工場のゼロ・エミッション認定年月

工場名	認定年月	工場名	認定年月
静岡工場	平成17年8月	駒ヶ根工場	平成19年4月
松本工場	平成17年9月	岩手工場	平成19年8月
福岡工場	平成18年1月	山梨工場	平成19年9月
名古屋工場	平成18年7月	福井工場	平成19年9月
沼田工場	平成18年8月	札幌工場	平成19年11月
岡山工場	平成18年11月	磯原工場	平成19年12月
大井川工場	平成18年12月	島根工場	平成20年3月
梓川工場	平成19年3月	富山工場	平成20年3月

chapter.2

現場ゼロ・エミッションへの取り組み

ミサワホームでは、2006年度に策定した環境5ヵ年活動計画「SUSTAINABLE 2010」に基づいて、2010年までに、新築住宅における全施工現場でのゼロ・エミッション化を推進しています。ミサワホームにおける現場ゼロ・エミッション活動は、各エリアのモデルディーラーによる取り組みを行い、2007年度ミサワホーム西関東(群馬支店)が認定第一



書類審査

号を取得しました。今後、各エリアのモデルディーラーによる活動も継続して行い、ゼロ・エミッション推進を目指していきます。また、

住宅施工現場における廃棄物排出量調査を毎年実施しています。2007年度における棟当たりの排出量は、商品構成の変化や積算基準の見直しと部品の梱包形態改善などにより、木質系住宅で約2.5トン(前年比78%)、ハイブリッド系住宅では約1.4トン(前年比58%)となり、昨年より改善されました。今後も、全施工現場での廃棄物削減及びゼロ・



現場審査

エミッションを推進し、地球規模での環境負荷低減を図るとともに、施工現場の周辺居住者が安心できる生産活動に努めます。

健康配慮 ミサワホームは独自のデータベースにより化学物質の削減を推進し、人々の健康に配慮します。

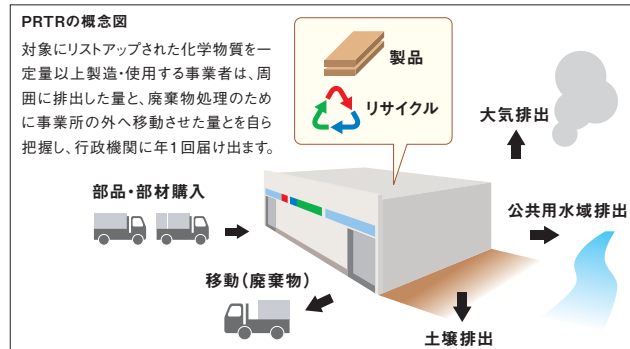
chapter.1

有害化学物質削減の推進

■有害化学物質管理（PRTR）と削減

ミサワホームでは2007年度、6工場延べ11物質の届出を行いました。新規の部品部材のうち、接着剤・塗料などの製品安全データを基に独自のデータベース化をPRTR法施行に合わせて構築し、現在もシステムの集計精度を高める取り組みを続けています。環境5ヵ年活動計画「SUSTAINABLE 2010」では、2007年度優先取組物質としてラッピング用接着剤成分のジクロロメタンと造作材用の樹脂添加剤としての鉛を指定し、削減に取り組み、ジクロロメタンは、前年比47.3%削減、鉛については、改善が遅れて前年同様となりました。2008年度も継続して削減に努めます。

※PRTR（Pollutant Release and Transfer Register）は、指定化学物質がどの発生源からどれくらい周囲に排出されたか、また廃棄物に含まれて外に出されたかというデータを把握・集計し、公表する仕組みです。2000年7月に「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（PRTR法）が施行され、毎年1回の届出を行っています。



PRTR調査結果（2007年度分全体集計）

化学物質	毒性ランク	用途	総取扱量(トン)	排出量・移動量(トン)				消費(トン)	リサイクル(トン)
				大気	水質	土壌	移動(廃棄物)		
キシレン	第1種	塗料 他	65.63	64.97	0.00	0.00	0.66	0.00	0.00
鉛及びその化合物	第1種	樹脂添加剤	56.90	0.00	0.00	0.00	5.12	51.78	0.00
メチレンビス(4,1-フェニレン)＝ジイソシアネート	第2種	塗料	33.26	0.00	0.00	0.00	2.98	30.28	0.00
ジクロロメタン	第1種	ラッピング用接着剤	23.94	23.70	0.00	0.00	0.24	0.00	0.00
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	第1種	塗料可塑剤	19.44	0.00	0.00	0.00	1.75	17.69	0.00
トルエン	第1種	塗料 他	17.38	17.21	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00
エチルベンゼン	第1種	塗料 他	8.17	8.09	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00
グリオキサール	第1種	接着剤原材料	5.44	0.00	0.00	0.00	0.59	4.85	0.00
酢酸2-エトキシエチル	第1種	造作材用塗料	5.05	5.00	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	第1種	塗料・接着剤	4.08	0.00	0.00	0.00	0.32	3.76	0.00
フタル酸ジ-n-ブチル	第1種	塗料可塑剤	3.85	0.00	0.00	0.00	0.35	3.50	0.00
ヒドラジン	第1種	ボイラー清缶剤	0.21	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00	0.00
ノニルフェノール	第1種	刃物洗浄剤 塗料	0.21	0.00	0.00	0.00	0.02	0.19	0.00
スチレン	第1種	造作材用塗料	0.20	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
フェノール	第1種	役物接着剤	0.17	0.00	0.00	0.00	0.01	0.16	0.00
ポリ(オキシエチレン)＝ノニルフェニルエーテル	第1種	塗料界面活性剤	0.09	0.00	0.00	0.00	0.01	0.08	0.00
エチレングリコール	第1種	工場床塗料	0.08	0.00	0.00	0.00	0.01	0.07	0.00
メタクリル酸メチル	第1種	部品用接着剤	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00
1,3,5-トリメチルベンゼン	第1種	塗料	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クロム酸亜鉛	第1種	防錆剤下塗塗料	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
四酸化三鉛	第1種	防錆剤下塗塗料	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
合計			244.19	119.20	0.21	0.00	12.36	112.42	0.00
ダイオキシン類	特定1種	焼却炉	27.97 [※]	27.53 [※]	0.00	0.00	0.44 [※]	0.00	0.00

※単位:mg-TEQ



サイトレポート ミサワホームは、生産工場の環境基準の遵守、環境負荷の把握を徹底しています。

chapter.1

全国生産工場の環境パフォーマンス

■工場における2007年度環境負荷の把握

ミサワホームでは全国にある16カ所の生産工場において、化学物質の移動量や排出量を定期的に調査しています。大気、水質等の環境基準の遵守や、環境負荷の把握も徹底して行なっています。2007年度、各工場においてゼロエミッション化を達成したことにより、再資源化率の向上を図りました。多品種少量生産を基本に生産効率と品質の

向上を図るため、ミサワホーム独自の生産システムMPS (MISAWA Profit System)を導入し、安定した品質の工業化住宅部材を供給するため、常に改善に取り組んでいます。また、ミサワホームの全工場において環境マネジメントシステム(EMS)を導入し、生産における環境負荷低減に努めています。

※ISO14001認証工場についてはP38参照

工場名	省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
	原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
ミサワホーム岩手工場	527	773	100.0%	271	0	271
ミサワホーム梓川工場 ^{※1}	1,778	2,659	100.0%	314	0	314
ミサワホーム松本工場	840	1,206	100.0%	295	0	295
ミサワホーム沼田工場	1,268	1,804	100.0%	474	0	474
ミサワホーム静岡工場	908	1,307	100.0%	370	0	370
ミサワホーム岡山工場	1,027	1,506	100.0%	515	0	515
ミサワホーム福岡工場	675	969	100.0%	420	0	420
ミサワホーム駒ヶ根工場 ^{※1}	334	561	100.0%	111	0	111
ミサワホーム名古屋工場 ^{※2}	2,598	5,267	100.0%	2,993	0	2,993
ミサワホーム大井川工場 ^{※2}	74	105	100.0%	276	0	276
ミサワホーム札幌工場	657	1,254	99.4%	1,064	6	1,058
ミサワホーム山梨工場	506	782	100.0%	91	0	91
ミサワホーム磯原工場	327	533	100.0%	206	0	206
ミサワホーム福井工場	245	407	99.5%	190	1	189
ミサワホーム島根工場	217	338	85.6%	118	17	101
ミサワホーム富山工場 ^{※1}	184	264	100.0%	344	0	344

※1 木質部品工場 ※2 セラミック工場

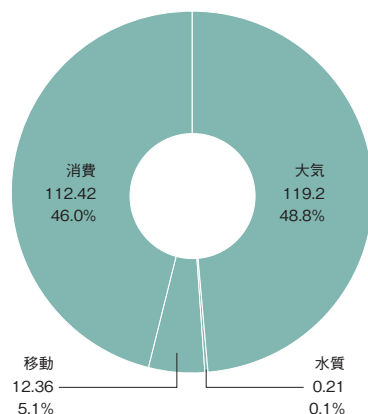
全国のミサワホーム生産工場

A. 岩手工場 B. 梓川工場
C. 松本工場 D. 沼田工場
E. 静岡工場 F. 岡山工場
G. 福岡工場 H. 駒ヶ根工場
I. 名古屋工場 J. 大井川工場
K. 札幌工場 L. 山梨工場
M. 磯原工場 N. 福井工場
O. 島根工場 P. 富山工場

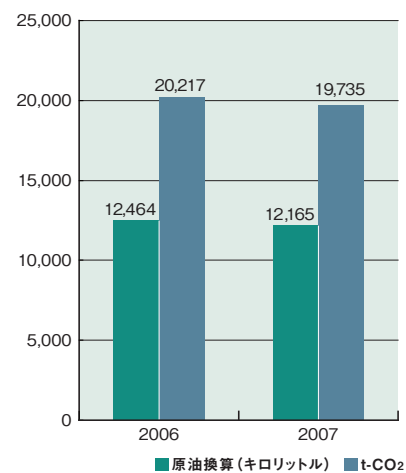


■はPRTR届出工場

排出・移動先別構成比



工場における省エネルギー



工場名	PRTR(トン)					
	総取扱量	大気	水質	土壌	移動(廃棄物)	消費
ミサワホーム岩手工場	5.08	0.09	0.00	0.00	0.46	4.53
ミサワホーム梓川工場 ^{※1}	86.66	10.05	0.00	0.00	6.98	69.63
ミサワホーム松本工場	3.31	0.18	0.10	0.00	0.27	2.76
ミサワホーム沼田工場	13.32	0.23	0.00	0.00	1.20	11.89
ミサワホーム静岡工場	5.69	4.79	0.00	0.00	0.13	0.77
ミサワホーム岡山工場	4.58	0.47	0.00	0.00	0.36	3.75
ミサワホーム福岡工場	2.98	0.20	0.00	0.00	0.26	2.52
ミサワホーム駒ヶ根工場 ^{※1}	9.40	9.31	0.00	0.00	0.09	0.00
ミサワホーム名古屋工場 ^{※2}	92.17	90.87	0.00	0.00	0.95	0.35
ミサワホーム大井川工場 ^{※2}	9.21	0.67	0.00	0.00	0.77	7.77
ミサワホーム札幌工場	2.95	0.23	0.00	0.00	0.25	2.47
ミサワホーム山梨工場	2.11	0.11	0.06	0.00	0.18	1.76
ミサワホーム磯原工場	1.76	0.51	0.03	0.00	0.12	1.10
ミサワホーム福井工場	1.10	0.09	0.00	0.00	0.10	0.91
ミサワホーム島根工場	1.98	0.03	0.02	0.00	0.18	1.75
ミサワホーム富山工場 ^{※1}	1.89	1.37	0.00	0.00	0.06	0.46

※1 木質部品工場 ※2 セラミック工場



事務所の環境推進運動 事務所内での省エネやリサイクル推進に努め、社員一人ひとりの意識向上を図ります。

chapter.1

省エネ・資源有効活用への取り組み

■「チーム・マイナス6%」への参加

ミサワホームでは、事務所内における電気、ガス、水道使用量削減への取り組みを継続的に行なっています。環境省が推進する「チーム・マイナス6%」に参加し、省エネ機器の積極的導入や、昼休みの一斉消灯の呼びかけ、照明配置の見直し、OA機器の電源を積極的にOFFにするなど電気を節約。また、地球温暖化防止への身近な取り組みとして、クールビズ推進運動に参加して、今年で4年目となります。空調

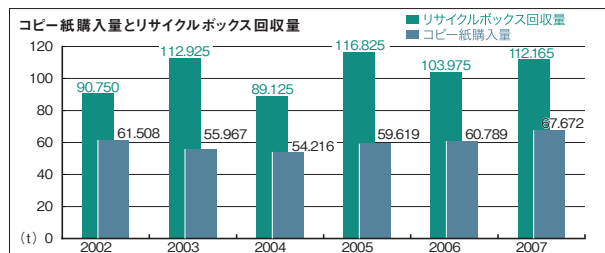


社内でクールビズ推進

は夏28℃を目安に管理し、時間帯ごとのブラインド調節で冷暖房効率を高め、終業時間の18:00には停止し、電気、ガスを節約しています。

■リサイクルボックスの設置

ミサワホームでは、1997年から現在に至るまで、ペーパーレス化と同時に使用した紙の再利用に努めてきました。使



用済み用紙は、個人用の「パーソナルボックス」と部全体で使用する「リサイクルボックス」を設置。2007年度のリサイクルボックス回収量は112,165kgで、これは直径14cm・高さ8mの原木2,243本を保全した計算です。今までの11年間に事務所活動で再資源化した使用済み用紙総量は、累計で約886t。これは森林面積に換算すると、177,198㎡で東京ドーム約3.8個分相当となります。

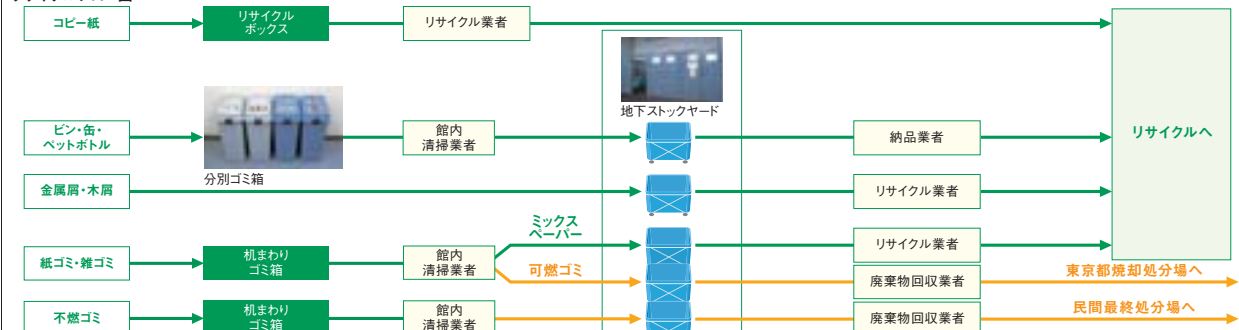
■グリーン購入の推進

ミサワホームの事業所活動における環境配慮は、社内で使用するエネルギーや紙資源などの削減にとどまりません。「グリーン購入」とは、品質や価格だけでなく、環境のことを考慮し、必要性を考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入することです。ミサワホームでは、コピー紙や文具などさまざまな事務用品を購入する際、環境配慮型製品を積極的に選択することを推進しています。2007年度のグリーン購入量実績は約56%でした。今後、更なるグリーン購入を図るため、社員一人一人への啓蒙活動を行い、意識向上に努めていきます。



環境に配慮した事務用品の例

リサイクルフロー図



環境コミュニケーション ミサワホームの環境活動を、より多くの方々にご理解いただけるよう努めています。

chapter.1

森林保護活動

ミサワホームは高気密・高断熱住宅の提供により、光熱費の低減、さらに自社開発の木素材の開発などを通じて森林を守り、CO₂削減を実践しています。また木材資源を活用している企業として、森林の保護活動など社員一人ひとりが高い環境意識を抱く指導を行っています。

■MISAWAオーナーの森 宮城

地域の取り組みとして、東北ミサワホームでは宮城県から県有林約5ヘクタールを無償で借り受け、ネーミングライツを導入。CSR活動のひとつと位置づけた環境貢献を行っています。この「MISAWAオーナーの森 宮城」ではミサワホーム社員とその家族がボランティアで間伐や下草刈り、遊歩道整備やベンチ設置を実施。ミサワホーム・オーナーの皆さま、ご家族の憩いの場として、また親子で参加できる楽しい体験



社員・家族による植林活動

型イベントの会場としての活用などを考えています。さらに記念植樹なども行い、小さなレベルながら日本の森を守る活動拠点としての活用を続けてまいります。

■長江希望森林

森林保護活動は、日本国内に限らず海外でも実施しています。ミサワホームでは中華人民共和国・臨沂(リンイ)においてLVL(単板積層材)の生産を行っていますが、2008年3月に江蘇省・鎮江市の揚子江生態産業植林基地内(約1万坪)において、当社グループの臨沂三澤木業有限公司社員自らの手により、約1,000本のポプラの植林を開始しました。今回の植林にあたっては、ミサワホームグループ社員より多数の賛同と募金を集めて実施することができました。1,000本という非常に小さな規模でのスタートですが、今後この輪を大きく広げ、何千本、何万本となり地球の環境保護に大きく貢献できる日を目指し「長江希望森林」と命名しました。



長江希望森林

chapter.2

CSR報告書の発行

ミサワホームは1999年、業界初の環境活動報告書「HEARTH」を発行。環境配慮型商品の開発や工場、事業所での取り組みなど、幅広い環境活動を広く公開し、毎年の発行を続けてきました。環境報告書には、お読みいただいた方々からのご意見・ご感想をいただき、よりよい報告書づくりに役立てるため、アンケートを添付。2005年度版からは、このアンケート結果も報告書にて公開しています。

発行開始から9年目を迎える2007年からは装いも新たに「CSR報告書」として発行し、今年で2年目となります。今後も引き続きアンケートなどによりステークホルダーの方々との積極的なコミュニケーションを図っていきます。



2007年度CSR報告書

ミサワホームグループの沿革

1960	●すぐれた断熱性・気密性を実現する画期的な「木質パネル接着工法」による工業化住宅を開発	1981	③当時の国家プロジェクト「ハウス55計画」を商品化させた環境負荷の少ない住宅「ミサワホーム55」発売 ●「エコ・エネルギー住宅」の次なる目標として、「ゼロ・エネルギー住宅」の研究開発に着手 ●「新耐震設計基準」を施行、ミサワホーム全商品で基準をクリア ●「長期保証制度」を実施 ●ミサワホーム東証、大証第1部に上場
1962	●業界初の建設大臣認定を受けて営業開始	1982	●リフォーム専門のホームイングを設立
1964	●ホームエンジニア制度採用	1983	●24時間サービス体制スタート ●「フレッシュタウン日の出」建設大臣表彰を受賞
1965	●プレハブ部材専門工場を松本に完成	1985	④「センチュリーA8」が建設省の推進するセンチュリーハウジングシステム第1号として評価
1966	●業界初の保証制度実施	1986	●床下に独自の防蟻シートを貼る、健康にも環境にもやさしい白アリ対策「無公害防蟻床工法」を開発
1967	●ミサワホーム株式会社設立 ①「木質パネル接着工法」が評価され、第9次南極観測の「第9居住棟」「ヘリコプター格納庫」にミサワホームが採用	1987	●国際居住博覧会に180度回転する未来住宅「フューチャーホーム2001」出展
1968	●松本工場の建設に着手	1988	●CIをグループに導入
1969	●《ホームコア》を発売 ②研究開発体制をいっそう強化・充実させるため、開発室を改組してミサワホーム総合研究所を設置	1989	●ラルフ・ネーダー氏が来日し、ミサワホームセミナーにおいて新たな住宅・環境問題に関する「7つの提言」 ●「NEAT」が日本経済新聞社優秀製品優秀賞受賞
1970	●万国博施設参加で未来住宅《ヘリコ》を出展	1990	●ミサワホームグループ全体の企業行動理念として、地球環境を視野に入れた「環境宣言」を発表 ●「花と緑の博覧会」に太陽追尾システムを搭載した「ゼロ・エネルギー住宅」のイメージモデルを出展 ●「GOMAS」の高級引違いサッシ、通産省のグッドデザイン部門別大賞を受賞
1971	●《フリーサイズF350》建設大臣の認定を取得 同年ホームコアと共に公庫承認を得る ●米ケンタッキー州 INBEX(国際工業住宅博覧会)に日本の住宅メーカーとして初参加	1991	●「GOMAS」日本経済新聞社・優秀製品優秀賞を受賞 ●南極昭和基地再開発構想の第1弾「管理棟」を国立極地研究所より受注 ●'91グッドデザインマーク商品に「GOMAS」が工業化住宅として初の選定
1974	●ミサワホーム総合研究所の新社屋完成に伴い、降雪・暴風雨などの実大実験ができる環境実験室を設置 ●省エネルギーの到達目標を明示し、一貫した開発計画のもとに段階的に追求していく「エコ・エネルギー計画」を発表 ●「ミサワホームF」建設大臣工業化住宅性能認定を取得	1992	⑤生活エネルギー自給率85%で、売電システム初採用の「エコ・エネルギー住宅」を開発、試行建設を実施 ●ミサワ総研『住まいの文化誌』が建設大臣表彰受賞
1975	●「ミサワホームC」建設大臣工業化住宅性能認定を取得 ●通産大臣から品質管理優良工業認定を取得(18工場)	1993	●超微粒子木材を他素材と複合することで、貴重な木資源を余すことなく活用する「M-Wood」を開発 ●介護専用型住宅「マザアス南柏」完成
1976	●ベストセラー企画住宅「O型」を発売 ●「ハウス55開発提案競技」に入選	1994	●太陽電池モジュールがそのまま屋根になる、世界初の屋根建材型「太陽光発電システム」を本格発売開始
1977	●「太陽エネルギー利用住宅」の開発に着手し、当時先進のパンプソーラーハウスの試行建設を実施		
1978	●通産大臣による品質管理優良工場認定が21工場となる		
1979	●アメリカの著名な消費者運動家ラルフ・ネーダー氏が来日し、日本の住宅産業に「12の提言」		
1980	●太陽熱を利用する独自の温水システムを越屋根に搭載した省エネルギー型ソーラーハウス「SⅢ型」発売		



1995	●北米材から、計画植林・伐採可能な北欧材への切り替えとして、フィンランドに製材工場を建設 ●「100年住宅」誕生 ●阪神・淡路大震災で建物倒壊なく、強度を立証	2001	●ミサワホーム岡山工場の新エネルギーシステムが新エネ大賞最高賞の「経済産業大臣賞」を受賞 ●「ミサワホームイング」を全国展開
1996	⑥「GENIUS蔵のある家」が、全部門の中から住宅として初のグッドデザインランプリを受賞 ●ミサワバウハウスコレクションを開設	2002	●微気候に配慮した快適なまちづくりを推進するマリナイースト21「森と海・碧浜」が第1期分譲開始 ●「微気候設計・デザイン」を取り入れた快適な住性能が評価され、「CENTURY」がグッドデザイン賞を受賞 ●100%リサイクル木素材「M-Wood2」のエクステリア部品が、(財)日本環境協会によるエコマーク認定
1997	●環境理念と6つの行動指針を発表した、新・環境宣言「HEARTH」リーフレットを作成 ●ミサワホーム松本工場が環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001認証を業界で初めて取得 ●「消費者志向優良企業」として通産大臣賞を受賞 ⑦リサイクルした素材とリサイクルできる素材だけで構成された世界初「100%リサイクル住宅」が完成 ●ミサワホームフィンランド、信用格付で「AAA」を取得 ●JR2社と新型寝台車両の内装を共同開発 ●'97グッドデザインマーク商品に「ミサワオリジナルガーデンシステム」が金賞を受賞 ●東大と3階建住宅の実大振動実験を実施	2003	●フロアセントラル換気システム技術をオープン化 ●ミサワホームホールディングスを設立
1998	⑧創エネルギー、省エネルギー、オール電化設備を融合した世界初のゼロ・エネルギー住宅「HYBRID-Z」発売 ●「ゼロ・エネルギー住宅」の企画販売などが評価され、環境省より「環境保全功労者」に表彰(地球温暖化部門) ●世界初の屋根建材型太陽光発電システムが評価され、第8回「日経地球環境技術賞」を受賞 ●「HYBRID-Z」がグッドデザイン金賞を受賞	2004	⑪実大振動実験における13回の想定大地震にも構造体の損傷ゼロを確認した制震装置「MGEO」発売 ●世界最大の太陽光発電住宅モデル団地「ヒルズガーデン清田」が北海道新エネルギー促進大賞受賞 ●「M-Wood2」が「愛・地球博」の会場デッキ、西エントランス部分の合計約19,000㎡に採用 ●燃料電池市場参入開始 ●品川区高齢者複合施設「ケアホーム西五反田」「さくらハイツ西五反田」オープン ●臨沂三澤有限公司、JAS認定を取得 ●新潟県中越地震で建物倒壊なく、強度を立証
1999	●「M-Wood」の技術を応用し、建築解体廃棄物の再生利用が可能な100%リサイクル木素材「M-Wood2」を開発 ⑨「M-Wood」の開発や「ゼロ・エネルギー住宅」の実現などが評価され、業界初の「地球環境大賞」を受賞 ●(財)建築環境・省エネルギー機構が創設した「環境共生住宅」認定を、「エコ・エネルギー住宅」が取得 ●ミサワホームの環境への幅広い取り組みを紹介した、業界初の「環境活動報告書」を作成 ●ミサワホームが「ISO14001」の認証を取得 ●「オナーズヒル新百合ヶ丘」がグッドデザイン賞受賞	2005	●“エコノマイズ”を提唱する「HYBRID自由空間」発売 ●「M-Wood」が広域認定制度の認定を取得し、端材の広域回収による効率的なリサイクルを実現 ●「GENIUS SMART STYLE ECO MODEL」発売 ●在来木造リフォーム用制震システム「MGEO-R」発売 ⑫先人の知恵と先進の技術・デザインを融合した「ECO・微気候デザイン」全面採用の「CENTURY VikiCourt」発売 ●ハイブリッド住宅用制震装置「MGEO-H」発売
2000	●太陽光発電システムなど、21世紀の環境技術を融合した環境共生住宅「HYBRID地球人の家」発売 ●「M-Wood2エクステリア」などがグッドデザイン賞受賞	2006	⑬都市で快適に暮らす「ECO・微気候デザイン」を取り入れた「GENIUS URBAN DESIGNERS VikiFEMY」発売 ●太陽光発電、オール電化を標準装備し、「ECO・微気候デザイン」採用の「HYBRID ECO-design」がグッドデザイン賞を受賞 ●「ミサワパーク東京」など住まいづくりのテーマパークが全国各地にオープン
2001	⑩既存樹木と地形をいかし、自然との共生をよく考えたまちづくり『宮崎台「桜坂」』がグッドデザイン賞を受賞	2007	●創立40周年記念商品「SMART STYLE O40」発売 ●「GENIUS Link-Age」他が第1回キッズデザイン賞を受賞 ●ミサワホーム全工場でゼロ・エミッションを達成 ⑭北海道・旭川に次世代ゼロエネルギー住宅の試行棟完成



ミサワホームグループネットワーク

ミサワホーム株式会社（東証、大証、名証各1部）03-3345-1111

住宅事業

木質 ディーラー

【北海道】

ミサワホーム北海道(札幌)
(北海道)

【東北】

東北ミサワホーム(東証1部)
(青森・岩手・宮城・秋田・山形)
ミサワホーム福島
(福島)
ミサワホーム庄司
(福島)
堀江ミサワホーム
(福島)

【関東甲信越】

ミサワホーム下館
(茨城)
栃木ミサワホーム
(栃木)
上信ミサワホーム
(群馬)
ミサワホーム西関東
(群馬・埼玉)
ミサワホーム東関東
(茨城・千葉)
ミサワホーム館山
(千葉)
旭ミサワホーム
(千葉)
ミサワホーム東京
(東京・神奈川)
多摩中央ミサワホーム
(東京)
湘南ミサワホーム
(神奈川)
ミサワホーム信越
(新潟・長野)
ミサワホーム上越
(新潟)
ミサワホーム佐渡
(新潟)
ミサワホーム山梨
(山梨)
ミサワホーム東長野
(長野)

【北陸】

北陸ミサワホーム(JASDAQ)
(富山・石川・福井)
ミサワホーム富山
(富山)

【東海】

ミサワホーム静岡
(静岡)
ミサワホーム東海
(岐阜・愛知・三重)

【近畿】

ミサワホーム近畿
(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良)
ミサワホーム杉橋
(滋賀)
和歌山ミサワホーム
(和歌山)
ミサワホーム高階
(兵庫)
ミサワホーム神田組
(兵庫)

【四国】

穴吹ミサワホーム
(徳島・香川・愛媛・高知)
ミサワホーム小豆島
(香川)

【中国】

ミサワホーム中国(JASDAQ)
(鳥取・島根・岡山・広島・山口)
ミサワホーム中原組
(山口)

【九州】

ミサワホーム九州
(福岡・長崎・熊本・大分・鹿児島)
ミサワホーム佐賀
(佐賀)

ミサワホーム別府
(大分)
ミサワホーム宮崎
(宮崎)

【東北】

ミサワセラミックホーム仙台
(宮城)

【関東甲信越】

ミサワセラミックホーム栃木
(栃木)
ミサワホーム西関東セラミック
(群馬・埼玉)
ミサワホーム東関東セラミック
(茨城・千葉)
ミサワホームセラミック
(埼玉・東京・神奈川)
ミサワセラミックホーム信越
(新潟・長野)
ミサワホーム山梨セラミック
(山梨)

【北陸】

北陸ミサワホームセラミック
(石川)

【東海】

ミサワホームセラミック
(静岡)
ミサワホーム静岡セラミック
(静岡)
ミサワホームセラミック
(愛知・岐阜)
ミサワホーム東海セラミック
(岐阜・愛知・三重)
ミサワセラミックホーム遊
(愛知)
ミサワセラミックホーム三重
(三重)

【近畿】

ミサワホームセラミック
(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良)
ミサワセラミックホーム和歌山
(和歌山)

【四国】

穴吹ミサワホームセラミック
(徳島・香川・愛媛・高知)

【中国】

ミサワセラミックホーム中国
(鳥取・島根・岡山・広島・山口)
ミサワセラミックホーム新山口
(山口)

【九州】

ミサワホーム九州セラミック
(福岡・長崎・熊本・大分)
ミサワセラミックホーム佐賀
(佐賀)
ミサワセラミックホーム宮崎
(宮崎)
ミサワセラミックホーム鹿児島
(鹿児島)

ホーム イング

【北海道】

ミサワホームイング北海道
(北海道 道央)
ミサワホームイング北海道NA
(北海道 道北)

【東北】

ミサワホームイング東北
(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)

【関東甲信越】

ミサワホームイング栃木
(栃木)
ミサワホームイング西関東
(群馬・埼玉)
ミサワホームイング東関東
(茨城・千葉)
ミサワホームイング東京
(東京・神奈川)
ミサワホームイング多摩
(東京)

ミサワホームイング湘南
(神奈川)
ミサワホームイング新潟
(新潟)
ミサワホームイング山梨
(山梨)
ミサワホームイング長野
(長野)

【北陸】

ミサワホームイング北陸
(富山・石川・福井)
ミサワホームイング富山
(富山)

【東海】

ミサワホームイング静岡
(静岡)
ミサワホームイング東海
(岐阜・愛知・三重)

【近畿】

ミサワホームイング近畿
(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良)
ミサワホームイング和歌山
(和歌山)

【四国】

穴吹ミサワホームイング
(徳島・香川・愛媛・高知)

【中国】

ミサワホームイング中国
(鳥取・島根・岡山・広島・山口)

【九州】

ミサワホームイング九州
(福岡・長崎・熊本・大分・鹿児島)
ミサワホームイング佐賀
(佐賀)
ミサワホームイング宮崎
(宮崎)

【セラミック】

ミサワホームイングセラミック
(東京・静岡・愛知・滋賀・大阪・兵庫)

関連会社

ミサワホーム総合研究所
03-3247-5644
創研
03-5929-1851
ミサワエムアールディー
03-3345-7990
メディアエムジー
03-5339-8500
マザアス
04-7176-8711
ミサワテクノ
0263-58-2100

【海外】

ミサワホームフィンランド
臨三澤木業有限公司

2008年5月現在

ミサワホームは100年先を見すえて、 資産価値の高い住まいづくりを行っています。

18年連続グッドデザイン賞 受賞



グッドデザイン賞は、すべての工業化製品を対象に、デザイン性だけでなく、機能、品質、安全性、アフターサービス、企業姿勢まで総合的に評価するため、確かな基準として社会的に定着しています。ミサワホームは、1990年の受賞以来18年連続受賞。1996年には、GENIUS「蔵のある家」が全部門の中から住宅として初めてグランプリを受賞しました。こうしたすぐれたデザインのエッセンスは、工業化住宅のメリットを生かし、ミサワホームのすべての住まいづくりにいかしています。

100年住宅 認定



政府は1982年、住宅の資産価値の向上を目指すCHS（センチュリーハウジングシステム）構想を発表。ミサワホームは1985年、第1号個別認定を取得しました。1993年には国土交通大臣認可の（財）ベターリビングにより、業界初のCHS60型耐用住宅の対象となるシステム認定を受け、「100年住宅」が誕生しました。ミサワホームのすべての住まいは、「100年住宅」に対応。適切なメンテナンス・工事を行うことで、50年～100年間、快適に暮らすことができます。

※アパート等を除く。

地球環境大賞 受賞



ミサワホームは、1990年と1997年の2度にわたる「環境宣言」のもと、地球環境に配慮した住まいづくりを推進してきました。業界に先がけて、国際規格「ISO14001」の認証を、商品開発から製造工場、製材工場、木材伐採業にいたるすべてのプロセスで取得し、環境保全に貢献できる住まいづくりを行っています。こうした姿勢や「M-Wood」などのリサイクル素材の開発、世界初の「ゼロ・エネルギー住宅」実現などが評価され、第8回「地球環境大賞」を受賞しました。

消費者志向優良企業 表彰



ミサワホームは、基礎・床・屋根などの構造体を20年間保証する「新築住宅保証制度」、20年目以降の保証期間を延長する「維持管理保証制度」など、業界をリードする保証制度を採用。さらに専任担当者が「定期巡回サービス」、「定期点検サービス」を実施し、緊急時に対応する「365日・24時間対応」など万全のサポート体制を敷いています。こうした多彩な活動が評価され、ミサワホームは1997年、政府により、「消費者志向優良企業」として表彰されました。

MISAWA

発行部署 ミサワホーム株式会社
建設推進部 環境推進グループ 経営企画部 広報・IRグループ

〒163-0833 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号

お問い合わせ先 TEL:03-3349-8088 FAX:03-5381-7838 E-Mail:kankyo@misawa.co.jp

www.misawa.co.jp/csr/

2008.9 発行